PHIL HART MONY

November 2024
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

終演時のカーテンコールを撮影していただけます

スマートフォンやコンパクトデジタルカメラなどで撮影していただけます。
SNSでシェアする際には、ハッシュタグ「#N響」「#nhkso」の追加をぜひお願いいたします。
ほかのお客様の映り込みにはご注意ください。

※撮影はご自席からとし、手を高く上げる、望遠レンズや三脚を使用するなど、
周囲のお客様の迷惑となるような行為はお控えください

You are free to take stage photos during the curtain calls at the end of the performance.

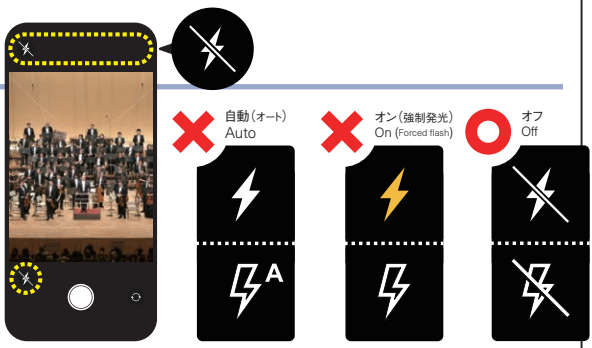
You can take photos with your smartphone or compact digital camera.
When you share the photos on social media, please add #nhkso.
Be careful to avoid accidentally including any audience members in your photos.

「フラッシュ」オフ設定確認のお願い

撮影前に、スマートフォンのフラッシュ設定が
「オフ」になっているかご確認をお願いいたします。

Set your device to "flash off mode."

Make sure that your smartphone is on "flash off mode" before taking photos.



スマートフォンのフラッシュをオフにする方法 | 多くの機種では、カメラ撮影の画面の四隅のどこかに、フラッシュの状態を示す⚡（カミナリマーク）を含むアイコンが表示されています。これをタップすることで、「オン（強制発光）」「自動（オート）」「オフ」に変更できます。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。ご協力をお願いいたします。

詳しくは51ページをご覧ください

こちらの2次元コードからアンケートページへアクセスできます

https://www.nhkso.or.jp/enquete.html

お客様へのお願い

Please kindly keep in mind the following:

公演中は携帯電話、時計のアラーム等は必ずお切りください
Be sure to set your phone to silent mode and turn off your watch alarm etc. during the performance.

私語、パンフレットをめくる音など、物音が出ないようご配慮ください
Please refrain from making any noise, such as engaging in private conversations or turning booklet pages.

発熱等の体調不良時にはご来場をお控えください
Please refrain from visiting the concert hall if you have a fever or feel unwell.

演奏は最後の余韻までお楽しみください
Please wait until the performance has completed before clapping hands or shouting "Bravo."

演奏中の入退場はご遠慮ください
Please refrain from entering or leaving your seat during the performance.

適切な手指の消毒、咳エチケットにご協力ください
Your proper hand disinfection and cough etiquette are highly appreciated.

場内での録画、録音、写真撮影は固くお断りいたします
（終演時のカーテンコールをのぞく）
Video or audio recordings, and still photography at the auditorium are strictly prohibited during the performance.
(Except at the time of the curtain calls at the end of the concert.)

補聴器が正しく装着されているかご確認ください
Please make sure that your hearing aids are properly fitted.

「ブラボー」等のお声掛けをされる際は、周囲の方へのご配慮にご協力をお願いいたします
When shouting "Bravo," please be considerate of people around you.

PHILHARMONY

CONTENTS
NOVEMBER 2024

11

4 特集 最も心に残ったN響コンサート&ソリスト2023–24

10 ［公演プログラム］Aプログラム

17 ［公演プログラム］Bプログラム

23 ［公演プログラム］Cプログラム

29 ［シリーズ］N響百年史 | 第50回 | ローゼンシュトック時代、開幕! 片山杜秀

2 NHK交響楽団メンバー
33 2024年12月定期公演のプログラムについて――公演企画担当者から
35 チケットのご案内
36 2024–25定期公演プログラム
38 ［速報］2025–26定期公演プログラム
41 特別公演／各地の公演
46 特別支援・特別協力・賛助会員
50 曲目解説執筆者／Information／N響の出演番組
51 みなさまの声をお聞かせください!
52 NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO Members

Artist Profiles & Program Notes

53 Program A
58 Program B
62 Program C

66 The Subscription Concerts Program 2024–25
68 N響関連のお知らせ
69 N響の社会貢献
70 役員等・団友

NHK交響楽団

首席指揮者:ファビオ・ルイージ
名誉音楽監督:シャルル・デュトワ
桂冠名誉指揮者:ヘルベルト・ブロムシュテット
桂冠指揮者:ウラディーミル・アシュケナージ
名誉指揮者:パーヴォ・ヤルヴィ
正指揮者:尾高忠明、下野竜也

特別コンサートマスター:篠崎史紀
第1コンサートマスター:郷古 廉
ゲスト・コンサートマスター:川崎洋介

第1ヴァイオリン

青木 調
飯塚歩夢
○宇根京子
大鹿由希
○倉冨亮太
後藤 康
小林玉紀
髙井敏弘
東條太河
猶井悠樹
中村弓子
降旗貴雄
松田拓之
○三又治彦
宮川奈々
○山岸 努
○横溝耕一

第2ヴァイオリン

◎大宮臨太郎
◎森田昌弘
木全利行
齋藤麻衣子
○嶋田慶子
○白井 篤
○田中晶子
坪井きらら
丹羽洋輔
平野一彦
船木陽子
俣野賢仁
村尾隆人
矢津将也
山田慶一
○横島礼理
横山俊朗
米田有花

ヴィオラ

◎佐々木 亮
◎村上淳一郎
☆中村翔太郎
小野 聡
小畠茂隆
栗林衣李
□坂口弦太郎
谷口真弓
飛澤浩人
○中村洋乃理
松井直之
三国レイチェル由依
＃御法川雄矢
○村松 龍

チェロ

◎辻本 玲
◎藤森亮一
市 寛也
小畠幸法
○中 実穂
○西山健一
藤村俊介
藤森洸一
宮坂拡志
村井 将
矢部優典
○山内俊輔
渡邊方子

コントラバス

◎吉田 秀
○市川雅典
稲川永示
○岡本 潤
今野 京
○西山真二
本間達朗
矢内陽子

フルート

◎甲斐雅之
◎神田寛明
梶川真歩
＃中村淳二

オーボエ

◎吉村結実
池田昭子
坪池泉美
和久井 仁

クラリネット

◎伊藤 圭
◎松本健司
山根孝司

ファゴット

◎宇賀神広宣
◎水谷上総
佐藤由起
菅原恵子
森田 格

ホルン

◎今井仁志
石山直城
勝俣 泰
木川博史
庄司雄大
野見山和子

トランペット

◎菊本和昭
◎長谷川智之
安藤友樹
藤井虹太郎
山本英司

トロンボーン

◎古賀 光
◎新田幹男
池上 亘
黒金寛行
吉川武典

テューバ

池田幸広

ティンパニ

◎植松 透
◎久保昌一

打楽器

石川達也
黒田英実
竹島悟史

ハープ

早川りさこ

ステージ・マネージャー

徳永匡哉
黒川大亮

ライブラリアン

沖 あかね
木村英代

こちらの2次元コードから
楽員の詳しいプロフィールが
ご覧いただけます。

https://www.nhkso.or.jp/about/member/index.html

（五十音順、◎首席、☆首席代行、○次席、□次席代行、＃インスペクター）

Special Thanks

NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

特別支援	With Special Support of
岩谷産業株式会社	Iwatani Corporation
三菱地所株式会社	Mitsubishi Estate Co., Ltd.
MIZUHO みずほ銀行	Mizuho Bank, Ltd.
公益財団法人 渋谷育英会	Shibuya Scholarship Foundation
東日本旅客鉄道株式会社	East Japan Railway Company
NTT東日本	Nippon Telegraph and Telephone East Corporation
東京海上ホールディングス株式会社	Tokio Marine Holdings, Inc.
株式会社ポケモン	The Pokémon Company

NHK交響楽団は上記の各社から特別支援をいただいております。

2020年2月、ウィーン・コンツェルトハウスにて
©Lukas Beck

最も心に残った

N響コンサート&ソリスト 2023–24

1997年に「N響ベスト・コンサート」として始まって以来、今回で25回目を迎える「最も心に残ったN響コンサート＆ソリスト」。新型コロナウイルス感染症拡大の影響下で、2020年、2021年と2年続けて実施を見合わせておりましたが、昨年から定期公演のシーズンに合わせる形で再開いたしました。

2023–24シーズン（2023年9月～2024年6月）の定期公演から、演奏をお聴きになったみなさまに投票をお願いし、今回は過去最多となる1000件以上の票が集まりました。みなさまの思い出がどのように順位に反映されているでしょうか。投票にご参加いただいたみなさま、ご協力ありがとうございました。

最も心に残った

N響コンサート2023–24

第1位 | 12月Aプロ | 第2000回 2023年12月16、17日

マーラー／交響曲 第8番 変ホ長調「一千人の交響曲」[ファン投票選出曲]

指揮：ファビオ・ルイージ　ソプラノ：ジャクリン・ワーグナー、ヴァレンティーナ・ファルカシュ、三宅理恵
アルト：オレシア・ペトロヴァ、カトリオーナ・モリソン　テノール：ミヒャエル・シャーデ　バリトン：ルーク・ストリフ
バス：ダーヴィッド・シュテフェンス　合唱：新国立劇場合唱団　児童合唱：NHK東京児童合唱団

ホール全体がこの大きな節目を祝おうという特別なムードに満ちていたことが忘れられません。大役を果たしたNHK東京児童合唱団への温かい雰囲気に満ちた格別の賛辞も、ルイージはじめ演奏者への終演後の鳴りやまぬ拍手も素晴らしい光景でした。（みにかる）

第2000回記念にふさわしい大曲を、ふさわしい大編成で、未曾有のパンデミックに打ち勝った記念すべき年の末にNHKホールで聴くことが出来たのは一生の思い出となった。（marginal）

いつもBプロ公演を楽しませていただいていますが、本公演だけは生で是非とも聴きたくて1回券を購入して鑑賞しました。予想に違わずというより予想をはるかに超えた生涯忘れる事のない名演であり、感動に打ち震えました。（平出健男）

2023–24シーズンのベスト・ワンは何と言ってもマーラー一択です！ ソリストの染み入る歌も素晴らしかったし、N響のダイナミックさが良く出た名演でした！（ひまわり）

満員のNHKホールに圧倒的に鳴り響くN響サウンドを浴びた時、生きている喜びを心から感じました。この歴史ある名演を聴けたことは一生忘れません。ありがとうございます!!（よち）

圧倒的祝祭感！ 会場も期待に満ちたただならぬ雰囲気の中、最初の一音から衝撃が凄かったです。ルイージの渾身の指揮とN響の全力の演奏はマーラー《第8番》の曲調も相まって記念碑的でした。これまでN響を聴いてきた中でも間違いなくベストの演奏で一生の想い出に残る公演でした。（ちうや）

なかなかコンサートで聞くことができないマラ8。マエストロルイージの明快な指揮とN響の技術、ソリスト、合唱団、全てが完璧だった。歴史に残る素晴らしいコンサートだったと思う。（Tac）

これぞマーラー！ これぞルイージ！ これぞN響！ と魂が震えました。（elkhart）

第2位 | 5月Aプロ | 第2010回 2024年5月11、12日

パンフィリ／戦いに生きて［日本初演］

レスピーギ／交響詩「ローマの松」

レスピーギ／交響詩「ローマの噴水」

レスピーギ／交響詩「ローマの祭り」

指揮：ファビオ・ルイージ

「ローマ三部作」のそれぞれが持つ雰囲気を完璧に引き出したルイージの指揮にN響が高い演奏力で応えた素晴らしい演奏だった。赤褐色のイタリアの土に育つ松の木々や涼やかな噴水の様子、情熱的な祭りの様子が生き生きと感じられ、NHKホールにいながら時間と距離を超えたイタリア旅行の充実感を味わうことができた。（Pojon）

「ローマ三部作」を一度に全て聴ける贅沢なプログラムが忘れられません。トランペット経験者としては、感動と「がんばれ!」という気持ちで胸がいっぱいでした。（麦茶）

第3位 | 2月Aプロ | 第2004回 2024年2月3、4日

ヨハン・シュトラウスⅡ世／ポルカ「クラップフェンの森で」作品336

ショスタコーヴィチ／舞台管弦楽のための組曲 第1番―「行進曲」「リリック・ワルツ」「小さなポルカ」「ワルツ第2番」

ショスタコーヴィチ／交響曲 第13番 変ロ短調 作品113「バビ・ヤール」★

指揮：井上道義　バス：アレクセイ・ティホミーロフ★　男声合唱：オルフェイ・ドレンガル男声合唱団★

シュトラウスのポルカで明るく始まったかと思いきや、ショスタコーヴィチの組曲で不穏な空気が漂い、《バビ・ヤール》につながるというプログラムの妙と、ティホミーロフ、オルフェイ・ドレンガル合唱団の歌が素晴らしかった。井上さんの気迫が伝わるコンサートでした。（新田博章）

今年で引退する井上さん渾身（こんしん）の指揮。N響とのショスタコーヴィチ・シリーズの有終の美を飾る素晴らしい演奏でした。（高田 仁）

第4位 | 1月Aプロ | 第2001回 2024年1月13、14日

ビゼー（シチェドリン編）／バレエ音楽「カルメン組曲」

ラヴェル／組曲「マ・メール・ロワ」

ラヴェル／バレエ音楽「ラ・ヴァルス」

指揮：トゥガン・ソヒエフ

『クラシック音楽館』で拝見しました。ソヒエフさんとN響のメンバーが奏でる《カルメン組曲》は、静かに美しく始まり、曲が進むにつれ楽しく強く、時にコミカルで、そして静かに美しく終わる、一時も目が離せない演奏でした!（みもちい）

《マ・メール・ロワ》の美しさに陶酔。各曲がきれいな箱に並べられたお菓子のようにきらめいて、夢のような時間を過ごせました。（DEKAE）

第5位 | 6月Aプロ | 第2013回 2024年6月8、9日

スクリャービン／夢想 作品24
スクリャービン／ピアノ協奏曲 嬰ヘ短調 作品20
スクリャービン／交響曲 第2番 ハ短調 作品29

指揮：原田慶太楼　ピアノ：反田恭平

原田慶太楼マエストロと反田恭平さんの熱いタッグが、若いコンマスの郷古さん率いるオケの皆さんにも伝わり、とても熱い素晴らしい公演でした。N響さんの底力も感じました。（Yasuko. R）

スクリャービンってこんなに素晴らしい作曲家だったのですね! 聞かず嫌いで、勝手に敬遠していましたが、その良さを初めて教えて（実感させて）もらえたコンサートでした。原田慶太楼氏には、もっと定期公演に登場してもらいたい。（江口正人）

第6位 | 4月Cプロ | 第2008回 2024年4月19、20日

ブルックナー／交響曲 第7番 ホ長調

指揮：クリストフ・エッシェンバッハ

冒頭から全ての音が神がかっていました。ブルックナーの意図する響きはこれだ! と正解を聞いた気がします。（きょんたろう）

エッシェンバッハとN響によってブルックナーの世界観がNHKホールに炸裂（さくれつ）した。川崎コンマスの情熱溢（あふ）れるリードも印象的で今シーズンの圧倒的No. 1!（山本英門）

第7位 | 4月Aプロ | 第2007回 | 4月13、14日
シューベルト／交響曲 第4番 ハ短調 D. 417「悲劇的」
ブラームス／交響曲 第1番 ハ短調 作品68
指揮：マレク・ヤノフスキ

第8位 | 1月Bプロ | 第2003回 | 1月24、25日
モーツァルト／ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲 変ホ長調 K. 364
ベートーヴェン／交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」
指揮：トゥガン・ソヒエフ
ヴァイオリン：郷古 廉（N響ゲスト・コンサートマスター）
ヴィオラ：村上淳一郎（N響首席ヴィオラ奏者）

第9位 | 11月Cプロ | 第1995回 | 11月10、11日
バルトーク／ハンガリーの風景
リスト／ハンガリー幻想曲*
コダーイ／組曲「ハーリ・ヤーノシュ」
指揮：ゲルゲイ・マダラシュ
ピアノ：阪田知樹*

第10位 | 6月Cプロ | 第2014回 | 6月14、15日
イベール／寄港地
ラヴェル／左手のためのピアノ協奏曲 ニ長調
ドビュッシー／夜想曲*
指揮：沖澤のどか
ピアノ：デニス・コジュヒン
女声合唱：東京混声合唱団*

最も心に残った

ソリスト2023–24

第1位 | 6月Aプロ | 第2013回 2024年6月8、9日

反田恭平（ピアノ）

スクリャービン／ピアノ協奏曲 嬰ヘ短調 作品20

スクリャービンの協奏曲、アンコールのグリーグとも素晴らしい演奏でした。（高橋一司）

演奏機会の少ない曲ですが、指揮者とのコミュニケーションも演奏も素晴らしく、曲の魅力が感じられました。（谷島みどり）

スクリャービンの官能的旋律を見事に表現していて、夢中になりました。（橋本隆寿）

キラキラした音とオーケストラとの掛け合いがとても良かったです。（堀内恵美）

力強く切ない主題と緩急の表現が豊かな反田さんのピアノの相性が抜群に発揮されていて、忘れられない演奏でした。（ささやか）

うまいだけではない心の奥まで響くような音楽性のあるピアノが素晴らしかったです。（渡邊直美）

反田恭平さんの生演奏を初めて拝聴しました。ピアノのタッチにシルクの手触りのような優美さを感じました。（請川克宣）

第2位 | 12月Bプロ | 第1999回 2023年12月6、7日

アリス・紗良・オット（ピアノ）

リスト／ピアノ協奏曲 第1番 変ホ長調

ピアノを完全に鳴らし切っていると思うようなクリアで粒立ちのはっきりした演奏がとても心地よく、リストの曲の魅力が際立っていました。アンコールに全く正反対の静かな曲を演奏されたのも心に染み入りました。（M・S）

迫力と繊細さが両立した素晴らしい演奏で、大ファンになりました。（荒木敏弘）

第3位 | 11月Cプロ | 第1995回 2023年11月10、11日

阪田知樹（ピアノ）

リスト／ハンガリー幻想曲

一音一音が美しく、ピアノってこんなに素敵な音が出るんだなあと感動いたしました。生演奏の素晴らしさに感動し心が震えました。（バウムクーヘン）

ハンガリー音楽に興味を持つきっかけとなった。ほかの人には出せない、魅力ある音でした。（わたなべ）

第4位
2月Aプロ | 第2004回
2024年2月3、4日
アレクセイ・ティホミーロフ（バス）
ショスタコーヴィチ／交響曲 第13番 変ロ短調 作品113「バビ・ヤール」

第5位
1月Bプロ | 第2003回
2024年1月24、25日
郷古 廉（ヴァイオリン）
村上淳一郎（ヴィオラ）
モーツァルト／ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲 変ホ長調 K. 364

第6位
2月Bプロ | 第2006回
2024年2月14、15日
アウグスティン・ハーデリ（ヴァイオリン）
プロコフィエフ／ヴァイオリン協奏曲 第2番 ト短調 作品63

投票を通じて寄せられたみなさまの声

子どもがピアノを習い始めたのをきっかけに『N響アワー』を見始めました。大きくなった子どもとN響のコンサートに行けるようになってうれしいです。（ハリネズミ）

晴れて年間会員として1年夫婦で通いました! 気付いたら他の公演も買い足して、すっかりN響ファンです。公演の予習をして、ひと月にいちど夫婦でホールに足を運び、ラジオやテレビで思い出を振り返る日々。最高です! 喜びや感動を夫婦で共有できる素敵な時間をありがとうございます。これからも応援しています!（こうの）

このごろは数か月おきに、会場へも足を運んでいる、高校1年生です。昨年夏のほっとコンサートは、（中学生で激安だったことから）はじめて1階席で鑑賞したのですが、2・3階とは一味違うその迫力で、聴き好んでいる華やかな音が奏でられていて、なんだかひどく感情がこみ上げてきたあの感覚は忘れられません。生の音楽のすばらしさを実感したとともに、自分にとってはじめて音楽で涙を流した経験でした。あの感覚はいまでも不思議です。これからもたくさんの感動を期待しています。（則天）

安い3階席ばかり利用するのですが、周りも皆オペラグラスで必死に見ていて一体感があって楽しいです。（とも）

オーチャード定期のみなとみらいホールのP席で、マエストロ尾高指揮のブラームスの《第3番》を聴かせていただいたのですが、P席は尾高さんと相対して拝聴する形となり、マエストロのオーラが神々しくて圧倒されまくりでした。（エリーの母）

N響のコンサートの録画を観ていると、胎動が激しくなります。赤ちゃんが元気な様子がわかってありがたいです!（黒田怜奈）

岩城宏之さんの本に啓発されてふと1000回公演直後のスウィトナーさんのブラームスを聴いてからN響定期に通い始め、2000回公演を超えて定年を迎えつつあります。でもまだまだ通わせていただきますので。（くますけ）

学生時代からのファンです。私はホルンをやっていますが、特にN響ホルンのサウンドに勉強させていただいています。8月の台湾公演にも日本から伺い、3演奏会を拝聴しました。（大熊美結紀）

私は地方に住む学生なので、いつも定期公演をテレビで拝見させてもらっています。この前の「ローマ三部作」はお友達と東京へ行き、初めて直接ホールで聴きました。いつもテレビで聴いているよりも迫力がすごく、音の振動が私の体に全て伝わってくる感覚が忘れられず、本当にいい思い出になりました。N響は技術が高く、毎度演奏に感動させられています。団員のみなさんも音楽を楽しそうに演奏している様子が見て分かり、大好きです。ぜひこれからも応援させていただきます!（Rena）

N響に通い始めて2年。仕事後にCプログラムに来るのもすっかり慣れました。先日の6月の公演で開演前の室内楽が終わったとのこと。団員の皆様の声と演奏が近くに感じられてうれしかったです。またどこかで復活していただきたいなと思っています。（寶來 翼）

招聘してほしい指揮者 ベスト5

①クラウス・マケラ
②シャルル・デュトワ
③サイモン・ラトル
④トゥガン・ソヒエフ
⑤グスターボ・ドゥダメル

招聘してほしいソリスト ベスト5

①藤田真央
②阪田知樹
③マルタ・アルゲリッチ
④ユジャ・ワン
⑤務川慧悟

PROGRAM

A

第2022回
NHKホール
11/9 土 6:00pm
11/10 日 2:00pm

指揮	山田和樹
ピアノ	フランチェスコ・ピエモンテージ
コンサートマスター	郷古 廉

ルーセル
バレエ音楽「バッカスとアリアーヌ」
作品43―組曲 第1番［18′］

バルトーク
ピアノ協奏曲 第3番［25′］
Ⅰ アレグレット
Ⅱ アダージョ・レリジョーソ
Ⅲ アレグロ・ヴィヴァーチェ

――休憩（20分）――

ラヴェル
優雅で感傷的なワルツ［17′］
Ⅰ 中ぐらいの速さで
Ⅱ とてもゆっくりと
Ⅲ 中ぐらいの速さで
Ⅳ とても生き生きと
Ⅴ ほとんどレントの速さで
Ⅵ とても活発に
Ⅶ 活発さを減じて
Ⅷ エピローグ：ゆっくりと

ドビュッシー
管弦楽のための「映像」―「イベリア」
［20′］
Ⅰ 町の道と田舎の道
Ⅱ 夜のかおり
Ⅲ 祭りの朝

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは51ページをご覧ください

こちらの2次元コードから
アンケートページへアクセスできます

https://www.nhkso.or.jp/enquete.html

山田和樹（指揮）

山田和樹は2024年3月末で読売日本交響楽団首席客演指揮者を退任。国内メジャー楽団の固定ポストをすべて返上し、欧米でのさらなる飛躍に向けて退路を断った形だ。5月には米シカゴ交響楽団と定期演奏会で初共演、芸術監督と音楽監督を兼ねるモンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団の日本ツアーを成功させ、英バーミンガム市交響楽団では首席指揮者兼アーティスティック・アドバイザーから音楽監督に昇任した。前後して東京芸術劇場の芸術監督（音楽部門）に就く人事（2026年4月）、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団へのデビュー（2025年6月）も発表された。当面は欧米各地のオーケストラを中心に指揮しつつ、世界一線の舞台で得たアイデアを日本国内の企画に還元し、新たなコンサートのあり方や聴衆拡大を目指す構えだ。今回のN響との共演では、ルーセル、ラヴェル、ドビュッシーとスイス・ロマンド管弦楽団首席客演指揮者時代（2012～2018年）やモンテカルロ・フィルで磨きをかけたフランス近代音楽の名曲を並べ、作曲年代を共有するバルトークの協奏曲をスイス出身のピアニスト、フランチェスコ・ピエモンテージと共演する。最近の山田は欧米での充実した指揮活動を背景に、作品の核心への踏み込みを一段と深める一方、誰にでもわかりやすいアプローチの幅も広げている。2009年のブザンソン国際指揮者コンクール優勝から2012年のスイス・ロマンド管弦楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団と3楽団同時のポスト獲得にかけての「第1の旬」をさらに上回る、「第2の旬」といえる。

［池田卓夫／音楽ジャーナリスト］

フランチェスコ・ピエモンテージ（ピアノ）

1983年、スイスのイタリア語圏にあるロカルノで生まれた。アリエ・ヴァルディ、アルフレッド・ブレンデル、セシル・ウーセに師事。2007年、エリーザベト王妃国際音楽コンクールで第3位に入賞。以後、国際的に活躍し、世界のトップ・オーケストラに招かれている。2014年にNHK交響楽団（指揮はロジャー・ノリントン）と初共演し、ベートーヴェンの《ピアノ協奏曲第1番》を弾き、2020年にはベルリン・フィルハーモニー管弦楽団（指揮はラハフ・シャニ）にデビューし、モーツァルトの《ピアノ協奏曲第27番》を演奏した。また、スイスのイタリア語圏、マッジョーレ湖畔で開催されている音楽祭「アスコナ音楽週間」の芸術監督を務めている。

モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルト、シューマン、リストなど、古典派からロマン派にかけての演奏で名高いが、近年は、ジョナサン・ノット&スイス・ロマンド管弦楽団と、ラヴェル、メシアン、シェーンベルクのピアノと管弦楽のための作品を録音するなど、近現代作品にも取り組んでいる。今回のバルトークの《ピアノ協奏曲第3番》がおおいに注目される。

［山田治生／音楽評論家］

Program Notes | 平野貴俊

来年はベルリン・フィルに客演するなど、世界の檜舞台での活躍が続く山田和樹。今回のプログラムは、山田の色彩ゆたかで潑溂とした音楽作りが似合う、フランスの名品を軸とする。ルーセルのバレエは古代ギリシア世界を鮮やかに再現し、ラヴェルとドビュッシーの作品は、それぞれ過去への憧憬と異国への憧憬を顕わにする。バルトーク最晩年のピアノ協奏曲と併せて聴くことで、20世紀前半の練達の作曲家たちによる、新奇性と明快さにあふれたオーケストラの響きを堪能できるだろう。

ルーセル

バレエ音楽「バッカスとアリアーヌ」作品43―組曲 第1番

ドビュッシー、ラヴェルと同世代のアルベール・ルーセル(1869～1937)は、25歳で海軍を辞めたあと本格的に音楽を学び、終生いかなる流派にも属することなく、生命力に満ちた音楽を創作した。《バッカスとアリアーヌ》(1930～1931年)は、円熟期のルーセルが、パリ・オペラ座のために作曲した2幕のバレエ。初演では、バッカスを踊ったセルジュ・リファールが振付、ジョルジョ・デ・キリコが衣裳と装置を担当した。現在では、第1幕を第1番、第2幕を第2番とする管弦楽組曲の形で親しまれている。華やかに終わる《第2番》にくらべて、静かに幕を閉じる《第1番》が単独で演奏される機会は稀だが、ルーセルの音楽の魅力である躍動感はいずれにもよく表れている。

作家アベル・エルマンによる、古代ギリシア神話にもとづく台本は、テセウスがナクソス島に到着する場面で始まる。アリアドネ(「アリアーヌ」はアリアドネのフランス語名)と少年少女を怪物ミノタウロスから救ったテセウスの到着に、人びとは歓喜する。怪物の退治を再現するテセウス。バッカス(ディオニュソスの異名)が黒いマントを振りかざしながら現れ(クラリネットの独奏)、アリアドネを眠らせる。テセウスらの退却と嵐の場面を経て、バッカスはアリアドネの周りで踊り始め、彼女も夢のなかで踊りに加わる(弦楽器による伸びやかな旋律)。バッカスは彼女を岩に降ろし、姿を消す。続く第2幕では、バッカスとアリアドネの結びつきが引き続き描かれることになる。

作曲年代	1930～1931年
初演	[バレエ]1931年5月22日、パリ・オペラ座、フィリップ・ゴーベール指揮　[管弦楽組曲]1933年4月2日、パリ、シャルル・ミュンシュ指揮、パリ交響楽団
楽器編成	フルート2(ピッコロ1)、ピッコロ1、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット4、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ1、サスペンデッド・シンバル、トライアングル、シンバル、大太鼓、小太鼓、タムタム、タンブリン、ハープ2、チェレスタ、弦楽

バルトーク

ピアノ協奏曲 第3番

1940年、ベーラ・バルトーク（1881～1945）は妻ディッタ・パーストリとともに故国ハンガリーからアメリカに移り、生涯最後の5年間を過ごした。アメリカでは民俗音楽の研究・講義を行う一方、作曲を中断していたが、当地の音楽家による委嘱をきっかけとして創作を再開、《管弦楽のための協奏曲》（1943/1945年、委嘱セルゲイ・クーセヴィツキー）などの傑作を生みだした。しかし1942年ころ症候が現れ始めた白血病が、やがてその命を奪うこととなる。

《ピアノ協奏曲第3番》は1945年、かつてピアノの弟子だった妻への誕生日プレゼントとして、密（ひそ）かに作曲が進められた。同年夏、アメリカ作曲家作詞家出版者協会（ASCAP）が提供した保養地サラナク・レイクの別荘でその大半を作曲したバルトークはしかし、9月21日にニューヨーク市の自宅で机に楽譜を残したまま病院に搬送され、26日にこの世を去る。未完となった最後の17小節のオーケストレーションは、21日にバルトークに面会していた友人ティボル・シェルイによって行われた。《第3番》のピアノ協奏曲には、野性味あふれる前2作とは対照的に、曇りのない澄んだ響きすら現れる。新鮮な驚きを与える音楽をつねに創作しえた、バルトークの創造力の最後の飛翔が刻みこまれた本作は、3作のなかでもとりわけ高い人気を誇る。

第1楽章　アレグレット、ソナタ形式。冒頭でピアノが奏する旋律と、その後のリズミカルな音型が対照的に扱われる。展開部は、ピアノによる変イ長調の分散和音で始まる。

第2楽章　アダージョ・レリジョーソ、3部形式（ABA）。Aのコラールは、ベートーヴェンの《弦楽四重奏曲第15番》第3楽章「聖なる感謝の歌」に触発されて書かれたという。Bはバルトークがたびたび創作した「夜の音楽」のひとつ。自然を愛したバルトークがアメリカで採譜した鳥の歌が用いられている。

第3楽章　アレグロ・ヴィヴァーチェ、ロンド形式（ABACA）。ピアノの華やかな走句で始まり、バロック音楽風のBとCではフーガが用いられる。

作曲年代	1945年
初演	1946年2月8日、フィラデルフィア、ユージン・オーマンディ指揮、ジェルジ・シャーンドル独奏、フィラデルフィア管弦楽団
楽器編成	フルート2（ピッコロ1）、オーボエ2（イングリッシュ・ホルン1）、クラリネット2（バス・クラリネット1）、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ1、シロフォン、トライアングル、小太鼓、大太鼓、シンバル、タムタム、弦楽、ピアノ・ソロ

ラヴェル

優雅で感傷的なワルツ

パリの楽壇で地歩を築きつつあった気鋭の作曲家、モーリス・ラヴェル（1875～1937）は1909年、新しい音楽を普及する場として、保守的な傾向の強い国民音楽協会に対抗して、独立音楽協会を設立した。2年後の1911年、同協会の演奏会のために彼が作曲したピアノ曲が《優雅で感傷的なワルツ》である。7つのワルツとエピローグからなる本作品は翌1912年、ラヴェル自身が台本を書いたバレエ《アデライード、または花言葉》の音楽として転用されることとなり、それに合わせて管弦楽化された。シューベルトのワルツを参考としつつも（シューベルトには《優雅なワルツ》〔D969〕、《感傷的なワルツ》〔D779〕というピアノ曲がある）、ロマン派と古典派の美質を巧みに撚り合わせ、引き締まった響きからしなだれかかるような音の動きまで、メリハリの利いた仕方で多彩な要素を繋げてゆくラヴェルの手腕は見事である。

華やかな**第1曲**は、威勢のよい3音の強奏で幕を開ける。憂いと気だるさ、ほのかな官能性を漂わせる**第2曲**に続き、侘しげなオーボエの旋律で始まる**第3曲**は、やや寛いだ表情をみせる。速めのテンポで淀みなく音楽が進む**第4曲**と、夢と現のあいだをさまよう半睡状態を思わせる**第5曲**が対比される。**第6曲**の軽やかな足取りも第5曲とは対照的。息の長い旋律が特徴的な**第7曲**は、ロマンティックで劇的ですらある。**エピローグ**ではこれまでのワルツが回想され、音楽はしだいに沈滞へ向かう。

作曲年代	［原曲（ピアノ版）］1911年　［管弦楽版］1912年
初演	［原曲（ピアノ版）］1911年5月9日、パリ、サル・ガヴォー、ルイ・オベールのピアノ　［バレエ（《アデライード、または花言葉》の一部として）］1912年4月22日、パリ、シャトレ劇場、ナターシャ・トゥルハノヴァ一座
	［管弦楽版］1913年9月25日、ロンドン、クイーンズ・ホール、ヘンリー・ウッド指揮、ニュー・クイーンズホール管弦楽団
楽器編成	フルート2、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ1、大太鼓、シンバル、サスペンデッド・シンバル、トライアングル、小太鼓、タンブリン、グロッケンシュピール、ハープ2、チェレスタ1、弦楽

ドビュッシー

管弦楽のための「映像」―「イベリア」

「水や鏡に映る影」、「心に描くイメージ」といった意味をもつフランス語imageの複数形images（映像）をタイトルとする作品群に、クロード・ドビュッシー（1862～1918）は約20年にわたって取り組んだ。1903年、彼は出版社のデュランと、ピアノ独奏のための6作品と、2台ピアノもしくは管弦楽のための6作品を「映像」のタイトルで出版する契約を交

わす。前者は《映像》第1集・第2集として完成されたが、後者の創作は難航した。まず、編成は2台ピアノではなく管弦楽となり、後半3曲の計画は白紙のままとなった。前半の曲名にもわずかな修正が施された。最初に完成したのは、それ自体3つの楽章を含む〈イベリア〉。次いで、それぞれ単一楽章の〈春の踊り〉、〈ジーグ〉が作曲された。《映像》全体が完成したのは、作曲開始から7年後の1912年だった。

第2曲〈イベリア〉は、その名の通り、スペインに想を得てドビュッシーが作曲した作品のひとつ。第1曲〈ジーグ〉はスコットランド、第3曲〈春の踊り〉はフランスというように、《管弦楽のための「映像」》全体が3つの国々のポートレートとなっている。フランスを代表する作曲家となりつつあった大家、ドビュッシーの円熟した筆さばきがいずれの曲でも際だっているが、本日演奏される〈イベリア〉はスペインの音楽と空気を雰囲気ゆたかに喚起し、3曲のなかでもとりわけポピュラーである。

Ⅰ〈町の道と田舎の道〉 セビリャーナス（スペイン南部アンダルシアを起源とするフラメンコ風の踊り）のリズムで幕を開ける。ホルンとトランペットの高らかなフレーズに続いて、明るく寛（くつろ）いだ表情の音楽が展開される。

Ⅱ〈夜のかおり〉 管楽器と、緻密なテクスチュアを織りなす弦楽器が、更けゆく夜のしじまと香気を伝える。次第に空が明るむかのように、〈祭りの朝〉へ切れ目なく移行する。

Ⅲ〈祭りの朝〉 カスタネットなどの打楽器が活躍する賑（にぎ）やかな音楽。次々と楽想が交替するなかで、3音のモチーフの変形と頻出が統一感を与えている。

作曲年代	《映像》全曲は1905～1912年、〈イベリア〉は1906～1909年
初演	1910年2月20日、パリ、シャトレ座、ガブリエル・ピエルネ指揮、コロンヌ管弦楽団
楽器編成	フルート3（ピッコロ1）、ピッコロ1、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット3、ファゴット3、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ1、カスタネット、タンブリン、小太鼓、シンバル、サスペンデッド・シンバル、テューブラー・ベル、シロフォン、チェレスタ1、ハープ2、弦楽

A
2024
NOVEMBER
［第2022回］

ハンガリーの民謡に思いを馳せて

ベーラ・バルトーク

Béla Bartók (1881–1945)

ハンガリーの作曲家バルトークは、民俗音楽の研究者でもあった。20代前半にハンガリー民謡の面白さ、奥深さにふれて魅了されると、国内外の各地へ熱心におもむき、民謡採集に取り組むようになる。その成果は彼の音楽にも活かされ、西欧音楽のスタイルで東欧的な響きを奏でる、独自の作風を確立した。

ピアノで作曲するバルトーク
ときにハンガリー民謡由来の旋律も顔をのぞかせる
イラストレーション：©IKE

意志あれば道あり！

民謡に魅せられたバルトークは、民俗音楽研究の先人であり同僚でもあったコダーイと交流するようになる。意気投合して2人で『ハンガリー民謡集』を出版したのは、バルトークが25歳の時。しかし1500部の初版を売り切るのに32年もかかったという。最初の出版がそんな反響のなさだったにもかかわらず、コダーイとバルトークはめげずに共同で研究を進めて名を成した。

PROGRAM

B

第2024回
サントリーホール
11/21 木 7:00pm
11/22 金 7:00pm

指揮	ディマ・スロボデニューク
ヴァイオリン	ニキータ・ボリソグレブスキー
コンサートマスター	長原幸太◆

◆**長原幸太**：広島出身。5歳よりヴァイオリンをはじめ、12歳で東京交響楽団と共演、東京藝術大学入学ののちジュリアード音楽院へ留学。小澤征爾はじめ多くの名指揮者と共演。東京・春・音楽祭では毎年ムーティと共演し、信頼を得ている。ソリスト、室内楽奏者として国内外で活躍するほか、2014年から2024年まで読売日本交響楽団コンサートマスターを務めた。

チャイコフスキー
ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品35［35′］
Ⅰ アレグロ・モデラート― モデラート・アッサイ
Ⅱ カンツォネッタ：アンダンテ
Ⅲ 終曲：アレグロ・ヴィヴァチッシモ

――休憩（20分）――

プロコフィエフ
バレエ音楽「石の花」［21′］
・銅山の女王
・結婚組曲
Ⅰ 恋の踊り
Ⅱ 婚約者の女友だちの踊り
Ⅲ 乙女たちの踊り
Ⅳ 儀式の踊り
Ⅴ 結婚の踊り

ストラヴィンスキー
3楽章の交響曲［22′］
Ⅰ ♩＝160
Ⅱ アンダンテ
Ⅲ コン・モート

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください
N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。
詳しくは51ページをご覧ください

こちらの2次元コードから
アンケートページへアクセスできます
https://www.nhkso.or.jp/enquete.html

ディマ・スロボデニューク（指揮）

フィンランドの指揮者ディマ・スロボデニュークは、現在、彼の世代でもっとも注目すべき指揮者のひとりとして、世界的に活躍している。

1975年、モスクワに生まれ、シベリウス音楽院でウクライナ出身のヴァイオリニスト、オルガ・パルホメンコに師事し、2001年に同音楽院を卒業。そこで同時にレイフ・セーゲルスタム、アッツォ・アルミラ、ヨルマ・パヌラから指揮を学んだほか、イリヤ・ムーシンやエサ・ペッカ・サロネンにも師事している。スロボデニュークは、2013年から2022年までガリシア交響楽団（スペイン）音楽監督、2016年から2021年まではラハティ交響楽団（フィンランド）首席指揮者、およびラハティ・シベリウス音楽祭の芸術監督を務めた。また、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、バイエルン放送交響楽団、ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団など、世界各地の著名なオーケストラに招かれ、好評を博している。ロシアや北欧の音楽に定評があるが、レパートリーは広く、同時代の作曲家の作品の演奏にも積極的に取り組んでいる。NHK交響楽団とは2019年7月にN響「夏」で初共演しているが、定期公演への出演は今回が初となる。

［増田良介／音楽評論家］

ニキータ・ボリソグレブスキー（ヴァイオリン）

チャイコフスキー（モスクワ）、エリーザベト（ブリュッセル）、フリッツ・クライスラー（ウィーン）、シベリウス（ヘルシンキ）、モントリオール、モンテカルロなど、数々の国際コンクールに優勝・入賞後も研鑽（けんさん）を怠らず、レパートリーという名の翼を広げてきた現代のトップアーティストのひとり――それが1985年ロシア出身のニキータ・ボリソグレブスキーだ。

モスクワ音楽院でエドゥアルド・グラチらに学んだあと、ベルギーのエリーザベト王妃音楽大学でオーギュスタン・デュメイに、ドイツのクロンベルク・アカデミーでアナ・チュマチェンコに教えを受けた。

ファン憧れの名曲に腕をふるういっぽう、イザイ、メトネルの秘曲をレコーディング。近年はウィーン・コンツェルトハウスのアーティスト・イン・レジデンスに迎えられたほか、アトリウム弦楽四重奏団の第1ヴァイオリン奏者としてサントリーホール・チェンバーミュージック・ガーデンでベートーヴェンの弦楽四重奏曲全曲を披露した。NHK交響楽団とは2017年7月にチャイコフスキーの協奏曲で初共演、2019年12月の定期公演Cプログラムではグラズノフの協奏曲を弾いた。

［奥田佳道／音楽評論家］

本日の演奏会では、贅沢にもチャイコフスキーの協奏曲、スロボデニュークがCDを出しているプロコフィエフの《石の花》およびストラヴィンスキーの《3楽章の交響曲》という、ロシア音楽の魅力たっぷりのプログラムを聴くことができる。きっとどの曲でも、あふれ出る率直な美しさやパワーに、私たちは圧倒されることだろう。

チャイコフスキー

ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品35

憂いをまとう優雅で爽やかなメロディ、ロシアやウクライナの元気な踊りなど、チャイコフスキーが得意な音楽表現にあふれた本作は、ヴァイオリン協奏曲の名曲のひとつに数えられている。作曲は1878年。ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー(1840〜1893)がサンクトペテルブルク音楽院に入学し、翌年音楽家への転身を決意して、歴史の浅いロシアのクラシック音楽界に貢献しはじめてから15年がたっていた。

1878年3月、スイスのクラランに滞在するチャイコフスキーのもとに、エドゥアール・ラロの《スペイン交響曲》を含む沢山の楽譜を持ってきたのは、彼の「男友達」のヴァイオリニスト、ヨシフ・コーテクだ。当時チャイコフスキーは、世間体のためにした女性との結婚に耐えきれず、外国に逃亡し、お気に入りの人たちだけに囲まれて創作の世界に没頭していた。ラロの曲をコーテクと一緒に弾いたチャイコフスキーは、その新鮮な和声やリズムに驚き、非常に急ピッチで本作を書くのである。

初演の独奏者として、チャイコフスキーは当初、名ヴァイオリニストのレオポルト・アウアーを希望していた。だが最終的には1881年12月、アドルフ・ブロツキーが独奏者をつとめ、ウィーンで初演された。

第1楽章　ニ長調。ソナタ形式。序奏に続いて、同音をはずんで2度鳴らす音型が特徴的な第1主題、少し憂いのニュアンスを含んだ第2主題が、独奏から登場。技巧が披露されたあと、ようやく第1主題が管弦楽によって勇壮に提示される。展開部の最後にカデンツァが入る。

第2楽章　「カンツォネッタ」と題されている。ト短調。3部形式の、優美で物悲しい歌。クララン滞在の合間に旅行したイタリアの思い出だとも言われる。アタッカで第3楽章へ。

第3楽章　ニ長調。《くるみ割り人形》のトレパークと同じリズムをもつ、ロシア、ウクライナの2拍子の踊り。速弾きのきわめて魅力的なヴァイオリン独奏が披露される。ロンド・ソナタ形式で、悠々とした第2主題もまた美しい。

作曲年代	1878年
初演	1881年12月4日、ハンス・リヒター指揮、アドルフ・ブロツキーによるヴァイオリン独奏、ウィーン
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、ティンパニ1、弦楽、ヴァイオリン・ソロ

プロコフィエフ

バレエ音楽「石の花」―「銅山の女王」「結婚組曲」

1918年にロシアから欧米に出て、1930年代半ばに帰国したセルゲイ・プロコフィエフ（1891～1953）は、1948年にソ連体制から厳しく批判された作曲家のひとりとなり、恐るべき攻撃にさらされる。ただでさえ、彼は3年前の脳挫傷以来ひどく健康を害していた。そんな中、汚名返上をめざし、愛する若き妻ミーラと手を取り合い、演出家のラヴロフスキーも交えて作曲をはじめたのがバレエ《石の花》だった。原作はバジョーフの説話集である。

〈銅山の女王〉は、バレエ冒頭（プロローグ）で流れる音楽だ。女王はウラル山脈の鉱物を守る精霊で、孔雀石で出来た艶やかな緑色の服を着て、その美貌により出会った男たちを不幸にする。彼女は人間たちを受け入れつつ、非道な管理人や貴族には懲罰を与える。彼女の庭には、真の「美」を具現化した石の花が咲いている。主人公の彫刻家ダニーロは、この花を見るために女王に引き寄せられるわけである。プロコフィエフが苦心して着想した旋律は、女王の崇高さを見事に表現している。それは演奏によって、ひたすら気高く強く聞こえることもあれば、悠久の山の神々の余裕として聞こえることもある。

ダニーロは、石の花、そして女王に心惹かれながらも、カテリーナという村娘と婚約している。彼らの婚約の儀式をめぐる踊りは、当時体制から求められていた民族色を打ち出すのに都合がよかったので、バレエの中でひとつの重点が置かれている。プロコフィエフはバレエ初演の許可が出るまでの間（初演は彼の没後の1954年）、1951年にバレエ音楽からラジオ放送のための3つの組曲を編んだ。《結婚組曲》はそのひとつだ。各曲の登場の順番はバレエとは異なる。第1曲〈恋の踊り〉はダニーロの主題および〈叙情的デュエット〉の音楽。第2曲は〈婚約者の女友だちの踊り〉と題されているがバレエ中の〈ダニーロの踊り〉だ。第3曲は〈乙女たちの踊り〉。第4曲〈儀式の踊り〉は、伝統的な結婚前の儀礼として花嫁が女友達に見送られる歌。第5曲〈結婚の踊り〉は民俗舞踊の「輪舞」であり、『イワン雷帝』の映画音楽で使われた白鳥の歌の再利用である。

作曲年代	《石の花》1948～1953年　《結婚組曲》1951年
初演	《石の花》1954年2月12日、ユーリ・ファイエルの指揮、ボリショイ劇場　《結婚組曲》1951年12月12日、サムイル・サモスードの指揮、モスクワ
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、Esクラリネット1、バス・クラリネット1、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ1、サスペンデッド・シンバル、小太鼓、大太鼓、タンブリン、グロッケンシュピール、ウッドブロック、トライアングル、シンバル、ハープ1、ピアノ1、弦楽

3楽章の交響曲

ロシアからパリに移住し、さらに第2次世界大戦時、アメリカに移住したイーゴリ・ストラヴィンスキー（1882～1971）は、1942～1945年にアメリカで《3楽章の交響曲》を書いた。委嘱元はニューヨーク・フィルハーモニー交響楽団。1943年に委嘱されたが採用されなかった『聖処女』の映画音楽や、やはり使われなかった戦争映像のための音楽も、本作に組み込まれた。

ストラヴィンスキーのよく響く、格好の良い音楽を聴くと、本作の標題性を考慮する必要はないとも感じる。実際、初演時（1946年1月）の曲目解説で、作曲者本人もこの曲を絶対音楽と呼んでいる。だが、のちにストラヴィンスキーは本作を「戦争交響曲」と呼び、種明かしをする。それが聴取の多少の手がかりになるだろう。

第1楽章　本楽章の形式については諸説あるが、一息に駆け上がる序奏、オクターヴ跳躍するホルンの主題、《春の祭典》を思わせる新鮮なリズムと半音階的なピアノが際立つ主題が存在し、移ろっていく点で、かなり自由なソナタ形式に近いと思われる。作曲者はのちにティンパニのルンバのリズムと戦車の動きを関連付けたほか、中間部を日中戦争時の焦土作戦で土を掘る中国人の映像のための音楽として説明した。

第2楽章　アンダンテ。もとは映画『聖処女』で聖母マリアの幻の登場を描くための音楽で、やさしく情感豊かな楽章。楽器編成は小さく、ハープの音が際立つ。ニ長調の主部はリズムの崩れが小気味よく、中間部の前後は柔らかなパッセージで区切られている。アタッカで7小節の「間奏曲」、次楽章へ。

第3楽章　コン・モート。作曲者が言及した「グーステップ」（膝を曲げない軍隊の行進）が想起されるマーチに、2度音程の強調からはじまるリズミカルな部分が対置される。「変わり目」となるのがピアノ、トロンボーン、ハープによるフーガ。作曲者が作品完成後に語ったプロットによれば、フーガも結末の「商業的すぎるかもしれない」ポップな和音も、連合国の勝利と関連する。

作曲年代	1942～1945年
初演	1946年1月24日、作曲者自身の指揮、ニューヨーク・フィルハーモニー交響楽団（現ニューヨーク・フィルハーモニック）
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、クラリネット3（バス・クラリネット1）、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ1、大太鼓、ハープ1、ピアノ1、弦楽

イーゴリ・ストラヴィンスキー

Igor Stravinsky（1882–1971）

時代をリードした作曲家

B
2024
NOVEMBER
［第2024回］

ロシアに生まれ、フランスで大ブレイクし、後年はアメリカで過ごしたストラヴィンスキー。世界を股にかけ、つねに時代をリードした20世紀を代表する作曲家だ。1940年、アメリカのハリウッドに住むことを決めた大作曲家ストラヴィンスキーのもとには、当然、ハリウッドの映画関係者からも作曲の話が舞い込んだが、残念ながら映画音楽の企画は実らなかった。

ストラヴィンスキーとアメリカ

1938年から翌年にかけて娘と妻、母を相次いで亡くしたストラヴィンスキー。1939年には第2次世界大戦も勃発し、戦火を逃れてアメリカに移住することを決意した。渡米後しばらくは、ロシア人のコミュニティのなかで過ごしていたストラヴィンスキーだが、戦後は《歌劇「道楽者のなりゆき」》などの名作を世に送り出し、作曲家としての名声を確固たるものとした。

戦争映画を見るストラヴィンスキー
生の強い雰囲気とは裏腹に、かなり小柄だった
イラストレーション：©IKE

PROGRAM

C

第2023回
NHKホール
11/15 金 7:00pm
11/16 土 2:00pm

指揮	アンドレス・オロスコ・エストラーダ
トランペット	ラインホルト・フリードリヒ
コンサートマスター	長原幸太 プロフィールはp. 17

ワーグナー
歌劇「タンホイザー」序曲［15′］

ヴァインベルク
トランペット協奏曲 変ロ長調 作品94
［22′］
Ⅰ エチュード：アレグロ・モルト
Ⅱ エピソード：アンダンテ
Ⅲ ファンファーレズ：アンダンテ―アレグレット

――休憩（20分）――

ショスタコーヴィチ
交響曲 第5番 ニ短調 作品47［45′］
Ⅰ モデラート
Ⅱ アレグレット
Ⅲ ラルゴ
Ⅳ アレグロ・ノン・トロッポ

※ 演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください
N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。
詳しくは51ページをご覧ください

こちらの2次元コードから
アンケートページへアクセスできます
https://www.nhkso.or.jp/enquete.html

C

15 & 16. NOV. 2024

アンドレス・オロスコ・エストラーダ（指揮）

1977年、コロンビア出身。ヴァイオリンと指揮を学び、1997年よりウィーンにわたり、ウィーン国立音楽大学でハンス・スワロフスキーの弟子ウロシュ・ラヨヴィッチに師事した。現在もウィーンを拠点に国際的な活動を展開する。2019年にはウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の来日公演で指揮を務め、ストラヴィンスキー《春の祭典》ほかのプログラムで鮮烈な印象を残した。ウィーン・フィルとはBBCプロムスやルツェルン音楽祭でも共演している。

これまでにオーストリアのトーンキュンストラー管弦楽団首席指揮者、hr交響楽団音楽監督、ヒューストン交響楽団音楽監督、ウィーン交響楽団首席指揮者の要職を歴任。現在RAI国立交響楽団の首席指揮者を務めており、2025年からはケルン・ギュルツェニヒ管弦楽団およびケルン歌劇場の音楽総監督に就任することが発表されている。ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団やロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団などトップレベルのオーケストラへの客演も多い。レコーディングにも積極的で、フランクフルト放送交響楽団とのリヒャルト・シュトラウス・シリーズほかで注目を集める。

N響とは今回が初共演となる。ショスタコーヴィチの《交響曲第5番》はベルリン・フィルへのデビューでもとりあげたレパートリー。オーケストラから明快なサウンドを引き出して、生命力あふれる音楽を生み出してくれることだろう。

［飯尾洋一／音楽ジャーナリスト］

ラインホルト・フリードリヒ（トランペット）

1958年ドイツのヴァインガルテン生まれ。7歳からトランペットを始め、エドワード・タール、ピエール・ティボーに師事した。1982年、ベルリン芸術週間でベリオの《セクエンツァX》を演奏してデビュー。1983年から1999年までフランクフルト放送交響楽団（現hr交響楽団）の首席奏者を務め、2003年ルツェルン祝祭管弦楽団の創立時には、指揮者クラウディオ・アバドから首席奏者に任命された。1986年のARDミュンヘン国際コンクールで第2位（1位なし）を獲得して以来、ソリストとしても活躍。ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団、ウィーン交響楽団など、多くのオーケストラと共演している。また、古楽器に精通すると同時に現代作品の紹介にも尽力。CDも多数リリースしている。現在はカールスルーエ音楽大学の教授を務め、数多くの後進を指導している。

肉厚の輝かしい音色で絶大なインパクトを与える名手だけに、今回のN響との初共演への期待は十分。パロディ的なフレーズを交えたヴァインベルクの多彩な協奏曲を、いかに聴かせてくれるか？ 大いに注目される。

［柴田克彦／音楽評論家］

体制に不都合な芸術家は迫害される。ドレスデン革命でお尋ね者となってチューリヒに亡命したワーグナー、ナチスを避けて亡命したソ連でも投獄されたヴァインベルク然りだ。ショスタコーヴィチにも粛清の危機は迫ったが、彼の場合は体制に都合よく振る舞うよう強制されたにもかかわらず、反体制派から罵詈雑言を投げられ続けた二重の責め苦を負っていた。そんな逆境を乗り越えて…… と安易に美談とするべきではないが、諦めずに葛藤し続けた作曲家の音楽はやはり魅力的だ。

ワーグナー

歌劇「タンホイザー」序曲

1840年、パリのオペラ座に《さまよえるオランダ人》の草案を提示するも、結局は物語のあらすじしか買い取ってもらえなかったリヒャルト・ワーグナー（1813～1883）。経済的にも困窮した2年半のパリ生活に終止符を打ち、1842年春にドレスデンへと向かう。その道中で目にしたアイゼナハのヴァルトブルク城を舞台にしたのが、2つの伝説をミックスした歌劇《タンホイザー》（《タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦》）である。舞台は13世紀、愛欲の世界を捨てて故郷に戻ってきたミンネゼンガー（いわゆる吟遊詩人）のタンホイザーが、城での歌合戦においてキリスト教では赦されぬ官能を讃えてしまう。そんな彼をエリーザベトが精神的な愛で救済する…… という物語だ。幕が上がる前に演奏される序曲は3部形式（主部―中間部―主部）。主部は、劇中では巡礼者たちが合唱する「救済の動機」と、快楽に溺れたタンホイザーが罪の意識に苛まれる「悔恨の動機」で構成される。一方、中間部には軽やかな「快楽の動機」、力強く官能を讃える「ヴェーヌス讃歌」、タンホイザーを愛欲の世界に引き留めようとする静かな「愛の呪縛の動機」が登場。宗教的な荘厳さと、世俗的な愛欲が劇的なコントラストを生み出してゆく。

作曲年代	1843～1845年
初演	1845年10月19日、ドレスデン、作曲者自身の指揮
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ1、トライアングル、シンバル、タンブリン、弦楽

ヴァインベルク

トランペット協奏曲 変ロ長調 作品94

2010年に初の本格的な伝記が出版されるなど、21世紀になってから再評価が進むミェチスワフ・ヴァインベルク（1919～1996）。ソ連の作曲家というイメージが強いかもしれ

ないが、父はモルドヴァのキシナウ（当時はロシア帝国・キシニョフ）、母はウクライナのオデーサ（当時はロシア帝国・オデッサ）出身で、彼自身の生まれはポーランドだった。6つ年上のヴィトルト・ルトスワフスキと同時期にワルシャワ音楽院でも学んでいる。

ユダヤ系だったため、1939年にナチス・ドイツから逃れてソ連へ（両親と妹は強制収容所で没）。ミンスク（現ベラルーシ）の音楽院でリムスキー・コルサコフ門下だったゾロタレフに師事した。この頃、ショスタコーヴィチの《交響曲第5番》の演奏（楽器がなかったハープやチェレスタのパートもピアノで弾いたという）に関わり、感銘を受けたことで作風を転換。1942年の《交響曲第1番》がショスタコーヴィチ当人から高く評価されたことで、モスクワに招かれて移住。2人は互いの新作を共有しあう親しい間柄になった（ショスタコーヴィチ作品におけるユダヤ要素はヴァインベルクからの影響も大きい）。1953年に不条理な理由で投獄されるなど、たびたび政治体制に翻弄されたが、ヴァインベルクは最晩年まで充実した創作を続けてゆく。

しかしながら1960年代終わりから、チェリストのムスティスラフ・ロストロポーヴィチや指揮者のキリル・コンドラシンと作品を巡って仲違い。また1970年代以降、ショスタコーヴィチ以後のソ連の作曲家を世界へと発信したヴァイオリニストのギドン・クレーメルが、ヴァインベルクを古い時代の作曲家とみなして無視。より若くて先鋭的な音楽を書いていたアルフレート・シュニトケ（1934～1998）やソフィア・グバイドゥーリナ（1931～）らを積極的に取り上げていく。こうした事情が重なり、しばらくヴァインベルクは日陰の存在となっていた。

そうした作品評価の分岐点を迎える直前の1966～1967年、ボリショイ劇場の首席トランペット奏者だったティモフェイ・ドクシツェル（1921～2005）のために作曲されたのがこの協奏曲だ。**第1楽章〈エチューズ〉**はその名の通り、技巧性が際立つ。冒頭から繰り返される半音階的な第1主題と、3度の音程が肝になる第2主題による古典的なソナタ形式（ただし第2主題が先に再現される）。**第2楽章〈エピソーズ〉**は緩徐楽章で、異なる性格のエピソードが対比される。鐘の音が鳴ると切れ目なくはじまる**第3楽章〈ファンファーレズ〉**は、メンデルスゾーン、リムスキー・コルサコフ、ストラヴィンスキー、ビゼーらの作品からファンファーレ風のトランペット・パートを引用した、ショスタコーヴィチの《交響曲第15番》（1972年初演）を先取りしたかのような音楽だ。そこに第1楽章の主題も絡んでいく。

作曲年代	1966～1967年
初演	1968年1月6日、モスクワ音楽院大ホール、ティモフェイ・ドクシツェル独奏、キリル・コンドラシン指揮、モスクワ・フィルハーモニー交響楽団
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット3（Esクラリネット1、バス・クラリネット1）、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、ティンパニ1、大太鼓、シンバル、小太鼓、タンブリン、タムタム、テューブラー・ベル、むち、ヴィブラフォーン、シロフォン、ウッドブロック、ハープ1、チェレスタ、弦楽、トランペット・ソロ

C

15 & 16. NOV. 2024

交響曲 第5番 ニ短調 作品47

ヴァインベルクの音楽と人生を一変させたこの交響曲は、ドミートリ・ショスタコーヴィチ（1906〜1975）自身の人生を語るうえでも欠かせない作品であると広く知られている。

極めて刺激が強い、女性たちが性的暴行を受ける場面を含む《歌劇「ムツェンスクのマクベス夫人」》（1934年1月初演）は成功を収め、20代後半のショスタコーヴィチは経済的にも豊かになっていた。ところが初演から2年後にこのオペラを観たソ連の最高指導者スターリンは途中退席。その2日後には共産党の機関誌に大々的な批判が掲載され、ショスタコーヴィチは社会的地位が危うくなるだけでなく粛清の危機にさらされる（実際、翌1937年の1年間だけで35万人以上が銃殺される時代だったのだ）。

1936年12月に初演を予定していた先鋭的な《交響曲第4番》で汚名返上を狙っていたが、初演前に作品を取り下げた。義理の兄夫妻や義母が実際に逮捕されていくなか、あらためて自らの名誉を取り戻すために作曲されたのがこの《交響曲第5番》である。初演からおよそ2か月かけて慎重に検討され、社会主義に相応しい楽曲と判断されたことでショスタコーヴィチは危うい立場を抜け出ることができた。建前かもしれないが、当時作曲者はこの曲について「人間の苦悩」を「楽天主義」で克服するのだと説明している。

ベートーヴェン的なドラマツルギーをもった**第1楽章**は、再現部冒頭が頂点となるソナタ形式。さまざまな旋律が対位法的に絡み合う第1主題はまさに「人間の苦悩」だ。弦楽が繰り返すリズムの上で第1ヴァイオリンが奏でる第2主題は、ビゼーの〈ハバネラ〉でカルメンが「愛（アモール）」と歌う旋律を引用したものだとされる。ピアノの低音がリズムを先導しはじめると、苦悩と闘う展開部となる。

諧謔（かいぎゃく）的なスケルツォである**第2楽章**は、3部形式。主部ではワルツ風、中間部では田舎のレントラー風に転じることもあるので、社会で踊らされる人間の姿を想起させる。

緩徐楽章である**第3楽章**は、3つの主題が入り乱れながら変奏されてゆく自由な形式。再び苦悩し、今度は自分の内面で葛藤する。

最もドラマティックな**第4楽章**も、自由な形式。最初はトロンボーンが提示する勇ましい主題が、「楽天主義」へと辿（たど）り着くまでを描く。

作曲年代	1937年
初演	1937年11月21日、レニングラード（現サンクトペテルブルク）、エフゲニー・ムラヴィンスキー指揮、レニングラード・フィルハーモニー管弦楽団
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、クラリネット2、Esクラリネット1、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ1、大太鼓、小太鼓、トライアングル、シンバル、サスペンデッド・シンバル、タムタム、グロッケンシュピール、シロフォン、ハープ2、ピアノ1（チェレスタ1）、弦楽

戦争に翻弄された苦難の人

ミェチスワフ・ヴァインベルク

Mieczysław Weinberg (1919–1996)

C
2024
NOVEMBER
［第2023回］

幼小期から音楽の才をみせ、前途洋々にみえたヴァインベルクの人生はしかし、ナチス・ドイツによるポーランド侵攻を契機に暗転する。命からがらソ連へと逃れ、音楽を続ける青年に手を差し伸べたのは、敬愛する作曲家ショスタコーヴィチだった。2人は互いに信頼しあう、家族のようなとても親しい友人となり、ショスタコーヴィチもヴァインベルクからおおいに影響を受けた。

ヴァインベルクの作風

多作家のヴァインベルクの作品には戦争をテーマとしたものも多く、それは「自分の運命がそうさせ」ており、また戦争を取り上げることは自分自身の「道徳的責務だ」とインタビューで述べている。とはいえ、ヴァインベルクの作品には悲劇的な要素だけでなく、力強いユーモアも同じくらい重要な要素だ。本日の曲目でも、思わず笑みがこぼれる引用など、楽しいポイントが満載だ。

互いの新作を見せ合うヴァインベルク（右）とショスタコーヴィチ（左）
イラストレーション：©IKE

N響百年史

第五十回 ― ローゼンシュトック時代、開幕！

片山杜秀 ― Morihide Katayama

二〇二六年のN響創立百周年に向け、NHK-FM「クラシックの迷宮」のパーソナリティとしてもお馴染みの思想史研究者で音楽評論家の片山杜秀さんが、時代背景とともにN響の歴史をひもときます。近衛秀麿の後継をめぐり、クロイツァーとの間に勃発した訴訟騒ぎをなんとか乗り切った新響は、ローゼンシュトックの厳格な指導のもと勇躍をとげます。

訴訟の顛末

新交響楽団（現NHK交響楽団）に騙された！――ヒトラーのドイツでは生きられず、ベルリンから近衛秀麿を頼って東京に逃れてきたユダヤ系の大ピアニスト、レオニード・クロイツァーは怒り心頭に発した。新交響楽団は契約を履行しない。1936（昭和11）年の秋に5回の演奏会をクロイツァーが指揮し、協奏曲では弾き振りもし、開催する予定だった。正規の書類にはなっていなかったかもしれない。が、きちんと約束はできていたはず。クロイツァー側のマネージャーは古澤武夫。新交響楽団側の窓口は川崎善弥。交渉はまとまっていたと、クロイツァー側は認識していた。ところが新交響楽団はそんな話があったとしても会議で通ったことは一度もないという。川崎はあくまで一介の事務員で、クロイツァーと契約する権限を有していない。楽団員を代表する立場にあったティンパニ奏者の小森宗太郎が、クロイツァー側の主張をはね返した。クロイツァーはなにか勘違いしている。ヨゼフ・ローゼンシュトックが来日して、専任指揮者として新交響楽団を率いることが明らかにされ、お披露目の演奏会の練習も始まっている1936年9月初旬から、クロイツァーとオーケストラは揉めに揉めた。

クロイツァーは、己の思惑と乖離していくばかりの事の経過に付いていけなくなっていた。ローゼンシュトックではなく自分こそが近衛秀麿の後継ではなかったのか。そのために日本放送協会や新交響楽団と折衝を重ねていたつもりだったのに。新交響楽団との秋のコンサート・シリーズとは定期公演かそれに類するものではなかったのか。クロイツァーには、日本への亡命の道を切り開いてくれた大恩人の近衛

と、小森や齋藤秀雄らの楽団員のあいだの深淵の程度がよくわかっていなかった。坊主憎けりゃ袈裟まで憎い。近衛憎けりゃクロイツァーまで憎い。自分の置かれた東京での立場がまさかそれほどネガティヴだとは、誇り高い大ピアニストにとっては想定外。とにかくクロイツァーに実感されたのは自分がとてつもなくないがしろにされているということ。新交響楽団といくら話をしても暖簾に腕押し。なにしろローゼンシュトックがもう現にやってきて、すべてを牛耳りはじめてしまったのだから。

どのみち、自分がもう新交響楽団を指揮できそうにはない。となったら、せめて損害賠償請求だ。クロイツァーは秋に民事の訴えを起こした。コンサート準備のためにすでに使った経費と、演奏会を開いて得られるはずの収入などを合わせて、2万数千円の損害をこうむった！——そう主張した。公衆電話が3分で5銭、喫茶店のコーヒーが1杯15銭の時代である。今日の1000倍か、2000倍か。その損害のうち百歩譲ってせめて9000円近くを払え。

しかし原告側の思うとおりにははかどらない。契約書をきちんと作らぬ日本社会の慣行が新交響楽団に味方する。そもそも、なにもかもが大ピアニストの誤解と妄想の積み重ねなのかもしれない。近衛本人や近衛のシンパが非公式に吹き込み続けた話をクロイツァーとその代理人が公式の話と勘違いしていたのかもしれない。いずれにせよ、クロイツァー側は確かな約束があったと立証できそうになかった。日本放送協会と新交響楽団とクロイツァーとの間での裏交渉も延々とあったのだろう。大ピアニストは1937（昭和12）年の春になって訴えを取り下げた。誤解は解けたというかたちになった。両者がひさびさに共演を果たすのは、ローゼンシュトックがいったん日本を去って渡米した、敗戦直後のこととなる。

こうしてクロイツァー時代の到来は夢まぼろしと終わった。新交響楽団に訪れたのはローゼンシュトック時代であった。戦争に向かう頃合いではあったけれど、純粋に音楽だけを取り出して歴史を語れるとすれば、その時代はやはりひとつの黄金の日々であったといえる。ローゼンシュトックのお披露目の特別演奏会は全曲ベートーヴェン。新交響楽団の希望でもあった。どんな指揮者かはオーケストラも聴衆もよく知る曲でこそ伝わりやすい。前半が《交響曲第3番「英雄」》、後半が同じく《第4番》と《序曲「レオノーレ」第3番》になった。

ローゼンシュトック時代の幕開け

ローゼンシュトックの猛練習が始まる。戦後、英語風にローゼンストックと名乗るようになった彼は、1979年に書き上げた自伝で、日本でのデビュー・コンサートに始まる新交響楽団との特に最初の時期の付き合いを、こう振り返っている。「初め、私は合奏の調子を整え、正確さを旨とすることに意を注いだ。初めの頃、それがあまりにも厳し過ぎはしなかったかと、私は、今、気に病んでいる。私は望んだ通りのことをやって貰いたかったからこそ要求を厳しくしたのであって、誰かを特に苛める心算は毛頭なかったし、実際そんなことをした覚えもない。もし誰かの気持を、知らず知らずの中に傷つけてしまったようなことがあれば、もう何年も経った現在でも、お許しを乞いたいと思う」（中村洪介訳『音楽はわが生命 ローゼンストック回想録』、日本放送出版協会、1980年）。

練習日を多く取り、鍛えに鍛える。そうして迎えた9月21日、日比谷公会堂での全ベートー

ヴェン・プロ。冒頭の《英雄》の出だしから聴き手に猛パンチを食らわせた。筋肉質とかカミソリとか。後々までのローゼンシュトックの演奏様式に対する定評は、この最初の演奏会から確実に作られ始めた。ローゼンシュトック時代の開幕である。

1956（昭和31）年、30周年を迎えたNHK交響楽団の歩みを回顧する『フィルハーモニー』誌上での座談会で、チェロ奏者だった大熊次郎は、ローゼンシュトック時代こそが今日のNHK交響楽団の血肉であり骨なのだと語る。「あの人の指揮法は或いは残酷といってもよい程厳しいものでしたが、だからそれだけに又我々の身にしみこんだわけなのですよ。例えば簡単なピアニシモでも音色の変化ということを非常にやかましく云ったでしょう。それからテーマの扱い方だってうるさかったじゃないですか？ 各楽器毎に音色によってはっきり変化を出せとかね、そういう先生の厳しい訓練が身にしみているからこそ今も昔と比べてみたって、アンサンブルに遜色がないなんてことはちょっとも不思議じゃないのです」

さらにもっと生々しい回想。同じ座談会で佐藤倉平は言う。海軍軍楽隊から無声映画館の楽士を経て、1931（昭和6）年に新交響楽団に入ったテューバ奏者だ。「あの頃の定期演奏会では私達はみんな決死のつもりで演奏したといっても過言ではない程、身の入れ方もすごかったですよ。これさえよく出来れば死んだって構まわんと云った意気込みでしたね。こう云っちゃ失礼ですが、もう聴衆のみなさんがたの思惑など、全く念頭になかったですからね」。かつての日本のプロ・オーケストラの楽団員に広く見られる性格上の特質を「楽隊気質」と呼んだものだが、そこには交響楽団も楽隊の一種であるということと一緒に「軍楽隊気質」を約めて「楽隊気質」と呼んでいる部分もある。交響楽団のメンバーの、特に管楽器陣に陸海軍の軍楽隊の出身者が多かった戦前から戦後の長い時代には、「楽隊気質」が「軍楽隊気質」に通じるという言葉の使い方にはとてもリアリティがあった。テューバの佐藤はそういう「楽隊屋」の典型のひとりだけれども、この回想にも「決死」とか「死んだって構まわん」とか、兵隊的な語彙や思想がうかがわれる。そして軍隊や軍楽隊における隊長と隊員、上官と部下の絶対的関係が、オーケストラの指揮者と奏者の次元にそっくり転写されているということがわかる。客商売という意識も低いから「聴衆のみなさんがたの思惑」は容易に念頭から消えもする。聴衆にステージから気軽に演奏者が語りかけるなどという当世の感覚は、まだ微塵も醸成されていない。

ローゼンシュトックの芸術とは

閑話休題。佐藤の回想の続きはこうだ。「正にローゼンストック先生とメンバーのそうぜつな闘いでしたよ。『なにくそ！ こいつをこんなに上手にやっても貴方は気に入らんのか』という悲愴な気持で、われわれは取組んでいったのです」。佐藤は「あの頃の定期演奏会」をそのように振り返る。

そう、ローゼンシュトックはお披露目の特別演奏会のあと、9月30日の第170回から定期公演を指揮するようになった。第170回は、ウェーバー《歌劇「オベロン」序曲》、モーツァルト《交響曲第35番「ハフナー」》、シェーンベルク《清められた夜》、メンデルスゾーン《交響曲第3番「スコットランド」》というプログラム。シェーンベルクを入れてきたのがシュレーカー門下のモダニス

ト、ローゼンシュトックらしさだろう。続く10月28日の第171回にはソリストも登場する。パリを本拠とし、当時は長期滞日中だった亡命ロシア人作曲家、アレクサンドル・チェレプニンが《ピアノ協奏曲第2番》を自演した。ローゼンシュトックが事実上の日本亡命のために欧州で苦労していたその年の7月に、チェレプニンは、彼が“発掘”したばかりの青年作曲家、伊福部昭を北海道から横浜に招いて、短期集中レッスンをつけていた。そのあと、新交響楽団の定期に招かれたわけだ。チェレプニンとローゼンシュトックはおそらく初対面であったのだが意気投合し、戦後に至る両者の長い信頼関係がこの日から築かれた。

そして11月11日の第172回もローゼンシュトックの指揮。ドビュッシーの《夜想曲》やリストの《ファウスト交響曲》。手の込んだ曲が並ぶ。もっというと12月もローゼンシュトック。そのまたあともローゼンシュトック。実は定期公演の指揮台は、1936（昭和11）年9月の定期から1942（昭和17）年1月まで、つまり第170回から第232回まで、足掛け7年もローゼンシュトックが独占した。音楽監督や常任指揮者という地位はオーケストラとは切っても切れないものだけれど、ここまで徹底されるのは珍しい部類だろう。ローゼンシュトック時代という言い方は伊達（だて）でも酔狂でもない。先に引いた大熊次郎の言葉をあらためて思い出そう。「（ローゼンシュトックの音作りが）我々の身にしみこんだわけなのですよ」。この台詞（せりふ）を練習が厳しかったせいとばかり考えてはいけない。年がら年中、いつも厳しいローゼンシュトック。まる5年半もだ。濃すぎる！

そんなローゼンシュトックは、厳しい練習の話がことさら強調されて、優秀なコーチでありトレーナーであったと評価されがちである。それはもちろん当たってはいる。でもコーチやトレーナーと片付けられる指揮者が63回も続けて定期公演に登場していたら、さすがに飽きるだろう。でも、加速度的に耳の肥えていった当時の東京の聴衆はローゼンシュトックを聴き続け、演奏に対して不満の声が大きくなることもなかった。彼は当たり前ながら言葉の単純な意味でのオーケストラ・ビルダーなどでは全くなかったのだ。あくまでトスカニーニ的、新即物主義的な芸術家であった。

とにかくこの長い時代にオーケストラの隅々までがローゼンシュトックそのものと化し、近代的機能性とでも呼ぶべきものを獲得していったのである。

文｜片山杜秀（かたやま もりひで）

思想史研究者、音楽評論家。慶應義塾大学法学部教授。2024年11月1日付で水戸芸術館館長に就任。2008年、『音盤考現学』『音盤博物誌』で吉田秀和賞、サントリー学芸賞を受賞。『クラシックの核心』『ゴジラと日の丸』『近代日本の右翼思想』『未完のファシズム』『見果てぬ日本』『尊皇攘夷』『大楽必易』ほか著書多数。

2024年12月定期公演のプログラムについて

公演企画担当者から

複雑なオーケストレーションをどこまで精緻に解き明かすか。主題の性格の変化をいかに印象づけるか。組曲に含まれる1曲1曲の個性をどれだけ際立たせるか。

3つのプログラムには、それぞれ違った視点で、指揮者の高い技量が求められよう。経験豊富な**ファビオ・ルイージ**だからこそなし得る、説得力ある解釈に期待したい。

まるでゲーム音楽さながらの臨場感 ――生誕150年シェーンベルクの《ペレアスとメリザンド》

［Aプログラム］の《**交響詩「ペレアスとメリザンド」**》は、ベルギー象徴主義の詩人メーテルリンクの戯曲をもとにした、濃密かつ豊饒（ほうじょう）な音楽である。とっつきにくい印象のある**シェーンベルク**だが、この曲はきらめく指環や塔から垂れるメリザンドの髪、不気味な地下の洞穴など、具体的な描写に満ちている。最小限の予習をして聴けば、ゲーム音楽さながらの臨場感が味わえるはずだ。生誕150年を機に、シェーンベルク初期の力作がますます注目されることを願う。

ワーグナー《トリスタンとイゾルデ》も三角関係を軸にした悲恋の物語。《ペレアス》に現れるいくつかの主題や動機は《トリスタン》を思わせる。曲のエッセンスが凝縮された〈**前奏曲と愛の死**〉を同じ機会に聴くことで、永遠に満たされぬ憧憬をテーマにした2作品の類似が明らかになるだろう。

前後の悲劇的な物語とは対照的に、**R. シュトラウス**の歌曲は、ロマンティックな愛や満ち足りた喜びを歌っている。名歌手**クリスティアーネ・カルク**が、微細な感情のニュアンスを描き尽くす。

マーラー《一千人の交響曲》と「神秘の合唱」で繋がるリスト《ファウスト交響曲》

［Cプログラム］は“交響詩の父”**リスト**の2作品。どちらもリストと同じくドイツのワイマールで活躍したゲーテと深い関わりがある。

《**タッソー**》とは、ゲーテが戯曲の題材にした、イタリア・ルネサンス期の詩人の名前である。ヴェネチアのゴンドラ漕（こ）ぎがタッソーの詩につけて歌っていたというメロディが、最初は詩人の悲劇的な人生の象徴として、次いで優美なメヌエットとして、最後に不朽の名声をたたえる高らかな勝利の歌として、それぞれ異なる様相を見せながら現れる。

大曲《**ファウスト交響曲**》のフィナーレは、ゲーテの『ファウスト』第2部から詩を引用した「神秘の合唱」。この詩はマーラー《一千人の交響曲》でも使われたもので、今回《ファウスト

交響曲》を選んだのは、昨年の第2000回定期公演の続編として、再びあの感動を味わって頂きたいと考えたためでもある。ルイージは去年、音楽監督を務めるダラス交響楽団とこの曲を演奏しており、躍動感ある音楽作りや全体設計の見事さが高く評価された。

ルイージが《展覧会の絵》に初挑戦! 名指揮者のバトンで東欧・ロシアの名作を堪能する

［Bプログラム］はロシア・東欧の名曲。生誕200年の**スメタナ**が書いた**《歌劇「売られた花嫁」序曲》**では、休みなく動き続ける弦のクレッシェンドが、演奏会への期待感を高めてくれる。オペラ指揮者でもあるルイージによって、胸のすくような快演が聴けるはずだ。

11年ぶりに登場するピアノの**ネルソン・ゲルナー**は、音楽の起伏や緩急への寄り添い方があまりにも自然なので、まるで個々の音符が自発的に動いているような錯覚に陥ることがある。**ラフマニノフ《ピアノ協奏曲第3番》**は、ゲルナーの最も得意な協奏曲で、優勝した1990年のジュネーヴ国際音楽コンクールで弾いたのもこの曲だった。旋律をたっぷり歌わせるルイージのサポートぶりにも注目したい。

ラヴェル編曲の**ムソルグスキー《組曲「展覧会の絵」》**は、繰り返し演奏される名曲だが、意外にもルイージが指揮するのは全く初めてである。絵画という共通のフレームで括られてはいるが、描かれる情景は、日常生活の一コマから空想の生き物、果ては地下墓地の骸骨まで、極めて振り幅が大きい。5月のレスピーギ《ローマ三部作》で示されたルイージの鮮やかな表現力は、この曲でも存分に生かされるだろう。

［西川彰一／NHK交響楽団 芸術主幹］

A 11/30 土 6:00pm / 12/1 日 2:00pm
NHKホール
※12月定期公演Aプログラム1日目は11月に開催いたします。

シェーンベルク生誕150年
ワーグナー／楽劇「トリスタンとイゾルデ」―「前奏曲と愛の死」
R. シュトラウス／「ばらの花輪」作品36-1★
R. シュトラウス／「なつかしいおもかげ」作品48-1★
R. シュトラウス／「森の喜び」作品49-1★
R. シュトラウス／「心安らかに」作品39-4★
R. シュトラウス／「あすの朝」作品27-4★
シェーンベルク／交響詩「ペレアスとメリザンド」作品5
指揮：ファビオ・ルイージ　ソプラノ：クリスティアーネ・カルク★

©Yusuke Miyazaki (SEPT)

B 12/5 木 7:00pm / 12/6 金 7:00pm
サントリーホール

スメタナ／歌劇「売られた花嫁」序曲
ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第3番 ニ短調 作品30
ムソルグスキー(ラヴェル編)／組曲「展覧会の絵」
指揮：ファビオ・ルイージ
ピアノ：ネルソン・ゲルナー

©Yusuke Miyazaki (SEPT)

C 12/13 金 7:00pm / 12/14 土 2:00pm
NHKホール

リスト／交響詩「タッソー」
リスト／ファウスト交響曲★
指揮：ファビオ・ルイージ
テノール：クリストファー・ヴェントリス★※　男声合唱：東京オペラシンガーズ★
※当初発表の出演者から変更となりました。

©Yusuke Miyazaki (SEPT)

チケットのご案内(定期公演 2024年9月〜2025年6月)

定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10〜44%お得です！(一般料金の場合。ユースチケットでは最大57%お得です。割引率は公演や券種によって異なります)

発売開始日 (10:00amからの受付)	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	2024年7月7日[日](定期会員先行)／2024年7月15日[月・祝](一般)
	シーズン会員券(Winter)	2024年10月10日[木](定期会員先行)／2024年10月15日[火](一般)
	シーズン会員券(Spring)	2025年2月13日[木](定期会員先行)／2025年2月19日[水](一般)

料金(税込)

年間会員券		S	A	B	C	D
Aプログラム(9回)	一般	¥76,500(¥8,500)	¥65,025(¥7,225)	¥49,725(¥5,525)	¥41,310(¥4,590)	¥32,895(¥3,655)
	ユースチケット	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥23,715(¥2,635)	¥19,503(¥2,167)	¥11,475(¥1,275)
Bプログラム(9回)	一般	¥91,800(¥10,200)	¥76,500(¥8,500)	¥61,200(¥6,800)	¥49,725(¥5,525)	¥42,075(¥4,675)
	ユースチケット	¥45,900(¥5,100)	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥24,858(¥2,762)	¥21,033(¥2,337)
Cプログラム(8回)	一般	¥68,000(¥8,500)	¥57,800(¥7,225)	¥44,200(¥5,525)	¥36,720(¥4,590)	¥29,240(¥3,655)
	ユースチケット	¥34,000(¥4,250)	¥27,200(¥3,400)	¥21,080(¥2,635)	¥17,336(¥2,167)	¥10,200(¥1,275)

シーズン会員券		S	A	B	C	D
Aプログラム(3回) Cプログラム [Autumn/Winter](3回)	一般	¥26,850(¥8,950)	¥22,824(¥7,608)	¥17,454(¥5,818)	¥14,499(¥4,833)	¥11,547(¥3,849)
	ユースチケット	¥13,425(¥4,475)	¥10,740(¥3,580)	¥8,325(¥2,775)	¥6,849(¥2,283)	¥4,029(¥1,343)
Cプログラム[Spring](2回)	一般	¥17,900(¥8,950)	¥15,216(¥7,608)	¥11,636(¥5,818)	¥9,666(¥4,833)	¥7,698(¥3,849)
	ユースチケット	¥8,950(¥4,475)	¥7,160(¥3,580)	¥5,550(¥2,775)	¥4,566(¥2,283)	¥2,686(¥1,343)

( )内は1公演あたりの単価
※本シーズンよりD席のみ設定されていた「ユースチケット会員券」を、全席種(S〜D)に拡大しました。
※本シーズンより定期会員券の料金を改定させていただきます。何卒ご了承のほどお願い申し上げます。

1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報でご覧ください。

発売開始日 (10:00amからの受付)	9・10・11月	2024年7月31日[水](定期会員先行)／2024年8月4日[日](一般)
	12・1・2月	2024年10月17日[木](定期会員先行)／2024年10月23日[水](一般)
	4・5・6月	2025年2月26日[水](定期会員先行)／2025年3月2日[日](一般)

※本シーズンより1回券の料金を改定させていただきます。何卒ご了承のほどお願い申し上げます。

ユースチケット

N響では、若い世代の方にオーケストラを身近に感じていただくことを願って、お得な「ユースチケット」を設けています。
詳しくはN響ホームページをご覧ください。※初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。

ユース世代の方へのお得なチケットが、さらに使いやすく！

対象年齢を拡大
2024年7月の主催公演から対象年齢を「29歳以下」に拡大しました

定期会員券の対象席種を拡大
「S席〜D席の全席種」に拡大しました

お申し込み
WEBチケットN響
https://nhkso.pia.jp

N響ガイド | TEL 0570-02-9502
営業時間:10:00am〜5:00pm/**定休日**:土・日・祝日
●東京都内での主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am〜開演時刻まで営業
●発売初日の土・日・祝日は10:00am〜3:00pmの営業●電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

Please follow us on

N響ニュースレター 最新情報をメールでお届けします。
WEBチケットN響の「利用登録」からご登録ください。

2024–25定期公演プログラム

2024 12

A

第2025回

11/30 土 6:00pm
12/1 日 2:00pm

※12月定期公演Aプログラム1日目は11月に開催いたします。

NHKホール

ドイツ・ロマン主義の馥郁たる香気に包まれる

シェーンベルク生誕150年

ワーグナー／楽劇「トリスタンとイゾルデ」—「前奏曲と愛の死」
R. シュトラウス／「ばらの花輪」作品36-1★、「なつかしいおもかげ」作品48-1★、「森の喜び」作品49-1★、「心安らかに」作品39-4★、「あすの朝」作品27-4★
シェーンベルク／交響詩「ペレアスとメリザンド」作品5

指揮：ファビオ・ルイージ　ソプラノ：クリスティアーネ・カルク★

一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

B

第2026回

12/5 木 7:00pm
12/6 金 7:00pm

サントリーホール

ルイージが屈指の名曲で掘り起こす　スラヴ音楽の魅力

スメタナ／歌劇「売られた花嫁」序曲
ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第3番 ニ短調 作品30
ムソルグスキー（ラヴェル編）／組曲「展覧会の絵」

指揮：ファビオ・ルイージ　ピアノ：ネルソン・ゲルナー

一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

C

第2027回

12/13 金 7:00pm
12/14 土 2:00pm

NHKホール

《一千人の交響曲》に続く ルイージ＆N響の『ファウスト』シリーズ

リスト／交響詩「タッソー」
リスト／ファウスト交響曲★

指揮：ファビオ・ルイージ
テノール：クリストファー・ヴェントリス★※　男声合唱：東京オペラシンガーズ★
※当初発表の出演者から変更となりました。

一般	ユースチケット
S ¥13,000	S ¥6,500
A ¥11,000	A ¥5,200
B ¥8,500	B ¥4,000
C ¥7,000	C ¥3,500
D ¥5,600	D ¥2,000
E ¥3,500	E ¥1,700

2025 01

A

第2028回

1/18 土 6:00pm
1/19 日 2:00pm

NHKホール

ソヒエフが《レニングラード交響曲》に万感の思いを込める

ショスタコーヴィチ没後50年

ショスタコーヴィチ／交響曲 第7番 ハ長調 作品60「レニングラード」

指揮：トゥガン・ソヒエフ

一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

B

第2030回

1/30 木 7:00pm
1/31 金 7:00pm

サントリーホール

音の魔術師のタクトが紡ぎだす　東欧の情緒に身をゆだねる

ムソルグスキー（リャードフ編）／歌劇「ソロチンツィの市」—「序曲」「ゴパック」
バルトーク／ヴァイオリン協奏曲 第2番
ドヴォルザーク／交響曲 第8番 ト長調 作品88

指揮：トゥガン・ソヒエフ　ヴァイオリン：郷古 廉（N響第1コンサートマスター）

一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

C

第2029回

1/24 金 7:00pm
1/25 土 2:00pm

NHKホール

世紀を超えて受け継がれる“古典”の精神

ストラヴィンスキー／組曲「プルチネッラ」
ブラームス／交響曲 第1番 ハ短調 作品68

指揮：トゥガン・ソヒエフ

一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2025 02

A

第2031回

2/8 土 6:00pm
2/9 日 2:00pm

NHKホール

チェコが生んだ新時代の巨匠ポペルカがN響デビュー

ツェムリンスキー／シンフォニエッタ 作品23
R. シュトラウス／ホルン協奏曲 第1番 変ホ長調 作品11
ドヴォルザーク／交響詩「のばと」作品110
ヤナーチェク／シンフォニエッタ

指揮：ペトル・ポペルカ　ホルン：ラデク・バボラーク

一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

B

第2032回

2/13 木 7:00pm
2/14 金 7:00pm

サントリーホール

世界の音楽界が熱視線を注ぐ　若き巨匠によるドイツ・プログラム

モーツァルト／アリア「私は行く、だがどこへ」K. 583★、アリア「大いなる魂と高貴な心は」K. 578★、交響曲 第25番 ト短調 K. 183、レチタティーヴォとアリア「私のうるわしい恋人よ、さようなら—とどまって下さい、ああいとしい人よ」K. 528★
シューマン／交響曲 第1番 変ロ長調 作品38「春」

指揮：ペトル・ポペルカ　メゾ・ソプラノ：エマ・ニコロフスカ★

一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

C

第2033回

2/21 金 7:00pm
2/22 土 2:00pm

NHKホール

下野竜也が誘うオペレッタ名旋律の世界

スッペ／喜歌劇「軽騎兵」序曲
サン・サーンス／ヴァイオリン協奏曲 第3番 ロ短調 作品61
スッペ／喜歌劇「詩人と農夫」序曲
オッフェンバック（ロザンタール編）／バレエ音楽「パリの喜び」（抜粋）

指揮：下野竜也　ヴァイオリン：三浦文彰

一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

A NHKホール
土 開場5:00pm 開演6:00pm
日 開場1:00pm 開演2:00pm

B サントリーホール
木 開場6:20pm 開演7:00pm
金 開場6:20pm 開演7:00pm

C NHKホール
金 開場6:00pm 開演7:00pm
土 開場1:00pm 開演2:00pm

2025 04

A
第2034回
4/12土 6:00pm
4/13日 2:00pm
NHKホール

ベルリオーズとプロコフィエフ 通底するテーマは「さすらい人」
ベルリオーズ／交響曲「イタリアのハロルド」*
プロコフィエフ／交響曲 第4番 ハ長調 作品112(改訂版／1947年)

指揮:パーヴォ・ヤルヴィ
ヴィオラ:アントワーヌ・タメスティ*

	一般	ユースチケット
S	¥11,000	¥5,500
A	¥9,500	¥4,500
B	¥7,600	¥3,500
C	¥6,000	¥2,800
D	¥5,000	¥1,800
E	¥3,000	¥1,400

B
第2035回
4/17木 7:00pm
4/18金 7:00pm
サントリーホール

《春の祭典》に続きパーヴォ&N響が贈る
ストラヴィンスキー三大バレエ第2弾
ストラヴィンスキー／バレエ音楽「ペトルーシカ」(全曲／1947年版)
プリテン／ピアノ協奏曲 作品13
プロコフィエフ／交響組曲「3つのオレンジへの恋」作品33bis
指揮:パーヴォ・ヤルヴィ　ピアノ:ベンジャミン・グローヴナー

	一般	ユースチケット
S	¥12,000	¥6,000
A	¥10,000	¥5,000
B	¥8,000	¥4,000
C	¥6,500	¥3,250
D	¥5,500	¥2,750

C
4月Cプログラムはヨーロッパ公演のため休止させていただきます

2025 05

A
第2036回
4/26土 6:00pm
4/27日 2:00pm
※5月定期公演Aプログラムは4月に開催いたします。
NHKホール

ヨーロッパ公演に先駆け 勝負曲を定期公演で披露
マーラー・フェスティバル2025 演奏曲
マーラー／交響曲 第3番 ニ短調

指揮:ファビオ・ルイージ　メゾ・ソプラノ:オレシア・ペトロヴァ
女声合唱:東京オペラシンガーズ　児童合唱:NHK東京児童合唱団

	一般	ユースチケット
S	¥15,000	¥7,000
A	¥12,500	¥6,000
B	¥10,000	¥5,000
C	¥8,000	¥4,000
D	¥6,500	¥3,000
E	¥4,500	¥2,000

B
第2037回
5/1木 7:00pm
5/2金 7:00pm
サントリーホール

軋みあう"生と死"を超克し その彼方の光へ
マーラー・フェスティバル2025 演奏曲(マーラーのみ)
ベルク／ヴァイオリン協奏曲
マーラー／交響曲 第4番 ト長調*
指揮:ファビオ・ルイージ
ヴァイオリン:諏訪内晶子　ソプラノ:森 麻季*

	一般	ユースチケット
S	¥12,000	¥6,000
A	¥10,000	¥5,000
B	¥8,000	¥4,000
C	¥6,500	¥3,250
D	¥5,500	¥2,750

C
第2038回
5/30金 7:00pm
5/31土 2:00pm
NHKホール

オペラ指揮者シュレキーテのR. シュトラウス!
N響定期初登場、藤田真央にも注目!
シューベルト／「ロザムンデ」序曲
ドホナーニ／童謡(きらきら星)の主題による変奏曲 作品25*
R. シュトラウス／歌劇「影のない女」による交響的幻想曲
R. シュトラウス／歌劇「ばらの騎士」組曲
指揮:ギエドレ・シュレキーテ　ピアノ:藤田真央*

	一般	ユースチケット
S	¥10,000	¥5,000
A	¥8,500	¥4,000
B	¥6,500	¥3,100
C	¥5,400	¥2,550
D	¥4,300	¥1,500
E	¥2,200	¥1,000

2025 06

A
第2039回
6/7土 6:00pm
6/8日 2:00pm
NHKホール

巨匠が魂を込めて振る チャイコフスキー最後の交響曲
リムスキー・コルサコフ／歌劇「5月の夜」序曲
ラフマニノフ／パガニーニの主題による狂詩曲 作品43*
チャイコフスキー／交響曲 第6番 ロ短調 作品74「悲愴」
指揮:ウラディーミル・フェドセーエフ
ピアノ:ユリアンナ・アヴデーエワ*

	一般	ユースチケット
S	¥10,000	¥5,000
A	¥8,500	¥4,000
B	¥6,500	¥3,100
C	¥5,400	¥2,550
D	¥4,300	¥1,500
E	¥2,200	¥1,000

B
第2040回
6/12木 7:00pm
6/13金 7:00pm
サントリーホール

チェリビダッケの直弟子 メナのブルックナー《第6番》
イベール／フルート協奏曲
ブルックナー／交響曲 第6番 イ長調

指揮:フアンホ・メナ
フルート:カール・ハインツ・シュッツ

	一般	ユースチケット
S	¥12,000	¥6,000
A	¥10,000	¥5,000
B	¥8,000	¥4,000
C	¥6,500	¥3,250
D	¥5,500	¥2,750

C
第2041回
6/20金 7:00pm
6/21土 2:00pm
NHKホール

2000年生まれの超新星 ペルトコスキのマーラー《巨人》
コルンゴルト／ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品35
マーラー／交響曲 第1番 ニ長調「巨人」

指揮:タルモ・ペルトコスキ
ヴァイオリン:ダニエル・ロザコヴィッチ

	一般	ユースチケット
S	¥10,000	¥5,000
A	¥8,500	¥4,000
B	¥6,500	¥3,100
C	¥5,400	¥2,550
D	¥4,300	¥1,500
E	¥2,200	¥1,000

(料金はすべて税込)

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

速報 2025–26定期公演プログラム（2025年9月～2026年6月）

2025 09

A

第2042回
9/13土 6:00pm
9/14日 2:00pm
NHKホール

ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 作品73「皇帝」
フランツ・シュミット／交響曲 第4番 ハ長調

指揮：ファビオ・ルイージ
ピアノ：イェフィム・ブロンフマン

B

第2043回
9/18木 7:00pm
9/19金 7:00pm
サントリーホール

武満 徹／3つの映画音楽
ベートーヴェン／ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品61
メンデルスゾーン／交響曲 第4番 イ長調 作品90「イタリア」

指揮：ファビオ・ルイージ
ヴァイオリン：マリア・ドゥエニャス

C

第2044回
9/26金 7:00pm
9/27土 2:00pm
NHKホール

マーラー／こどもの不思議な角笛―「ラインの伝説」*「トランペットが美しく鳴り響くところ」*「浮世の生活」*「天上の生活」*「原光」*
シベリウス／交響詩「4つの伝説」作品22

指揮：ライアン・バンクロフト
バリトン：トマス・ハンプソン*

2025 10

A

第2046回
10/18土 6:00pm
10/19日 2:00pm
NHKホール

ストラヴィンスキー／詩篇交響曲
メンデルスゾーン／交響曲 第2番 変ロ長調 作品52「讃歌」*
指揮：ヘルベルト・ブロムシュテット
ソプラノ：クリスティーナ・ランツハマー*
メゾ・ソプラノ：マリー・ヘンリエッテ・ラインホルト*
テノール：ティルマン・リヒディ*
合唱：スウェーデン放送合唱団

B

第2045回
10/9木 7:00pm
10/10金 7:00pm
サントリーホール

グリーグ／組曲「ホルベアの時代から」作品40
ニルセン／フルート協奏曲
シベリウス／交響曲 第5番 変ホ長調 作品82
指揮：ヘルベルト・ブロムシュテット
フルート：セバスティアン・ジャコー

C

第2047回
10/24金 7:00pm
10/25土 2:00pm
NHKホール

ブラームス／ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品83
ブラームス／交響曲 第3番 ヘ長調 作品90

指揮：ヘルベルト・ブロムシュテット
ピアノ：レイフ・オヴェ・アンスネス

2025 11

A

第2048回
11/8土 6:00pm
11/9日 2:00pm
NHKホール

メシアン／神の現存の3つの小典礼*
ホルスト／組曲「惑星」作品32
指揮：シャルル・デュトワ
ピアノ：小菅 優*
オンド・マルトノ：大矢素子*
女声合唱：東京オペラシンガーズ

B

第2050回
11/20木 7:00pm
11/21金 7:00pm
サントリーホール

シューマン／「マンフレッド」序曲
モーツァルト／ピアノ協奏曲 第25番 ハ長調 K. 503
R. シュトラウス／交響詩「英雄の生涯」作品40

指揮：ラファエル・パヤーレ
ピアノ：エマニュエル・アックス

C

第2049回
ラヴェル生誕150年
11/14金 7:00pm
11/15土 2:00pm
NHKホール

ラヴェル／亡き王女のためのパヴァーヌ
ラヴェル／組曲「クープランの墓」
ラヴェル／バレエ音楽「ダフニスとクロエ」（全曲）*
指揮：シャルル・デュトワ
合唱：二期会合唱団*

速報 2025–26定期公演プログラム（2025年9月～2026年6月）

2025 12

A

第2051回
11/29土 6:00pm
11/30日 2:00pm
※12月定期公演Aプログラムは11月に開催いたします。
NHKホール

ショスタコーヴィチ／ヴァイオリン協奏曲 第1番 イ短調 作品77
ツェムリンスキー／交響詩「人魚姫」

指揮：ファビオ・ルイージ
ヴァイオリン：レオニダス・カヴァコス

B

第2052回
12/4木 7:00pm
12/5金 7:00pm
サントリーホール

藤倉 大／NHK交響楽団 委嘱作品［タイトル未定／世界初演］
フランク／交響的変奏曲★
サン・サーンス／交響曲 第3番 ハ短調 作品78「オルガンつき」

指揮：ファビオ・ルイージ
ピアノ：トム・ボロー★

C

第2053回
12/12金 7:00pm
12/13土 2:00pm
NHKホール

ショパン／ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 作品11 または第2番 ヘ短調 作品21
ニルセン／交響曲 第4番 作品29「不滅」

指揮：ファビオ・ルイージ
ピアノ：第19回ショパン国際ピアノコンクール優勝者

2026 01

A

第2054回
1/17土 6:00pm
1/18日 2:00pm
NHKホール

マーラー／交響曲 第6番 イ短調「悲劇的」

指揮：トゥガン・ソヒエフ

B

第2056回
1/29木 7:00pm
1/30金 7:00pm
サントリーホール

ムソルグスキー（ショスタコーヴィチ編）／歌劇「ホヴァンシチナ」―前奏曲「モスクワ川の夜明け」
ショスタコーヴィチ／ピアノ協奏曲 第2番 ヘ長調 作品102
プロコフィエフ／交響曲 第5番 変ロ長調 作品100

指揮：トゥガン・ソヒエフ
ピアノ：松田華音

C

第2055回
1/23金 7:00pm
1/24土 2:00pm
NHKホール

ドビュッシー／牧神の午後への前奏曲
デュティユー／チェロ協奏曲「遥かなる遠い国へ」
リムスキー・コルサコフ／組曲「サルタン皇帝の物語」作品57
ストラヴィンスキー／バレエ組曲「火の鳥」（1919年版）

指揮：トゥガン・ソヒエフ
チェロ：上野通明

2026 02

A

第2057回
2/7土 6:00pm
2/8日 2:00pm
NHKホール

シューマン／交響曲 第3番 変ホ長調 作品97「ライン」
ワーグナー／楽劇「神々のたそがれ」―「ジークフリートのラインの旅」
「ジークフリートの葬送行進曲」「ブリュンヒルデの自己犠牲」★

指揮：フィリップ・ジョルダン
ソプラノ：タマラ・ウィルソン★

B

第2059回
2/19木 7:00pm
2/20金 7:00pm
サントリーホール

ドヴォルザーク／ヴァイオリン協奏曲 イ短調 作品53
ブラームス／セレナード 第1番 ニ長調 作品11

指揮：ヤクブ・フルシャ
ヴァイオリン：ヨゼフ・シュバチェク

C

第2058回
2/13金 7:00pm
2/14土 2:00pm
NHKホール

コダーイ／ハンガリー民謡「くじゃく」による変奏曲
フンメル／トランペット協奏曲 ホ長調
ムソルグスキー（近衛秀麿編）／組曲「展覧会の絵」

指揮：ゲルゲイ・マダラシュ
トランペット：菊本和昭（N響首席トランペット奏者）

A NHKホール
土 開場5:00pm 開演6:00pm
日 開場1:00pm 開演2:00pm

B サントリーホール
木 開場6:20pm 開演7:00pm
金 開場6:20pm 開演7:00pm

C NHKホール
金 開場6:00pm 開演7:00pm
土 開場1:00pm 開演2:00pm

2026 04

A 第2060回
4/11 土 6:00pm
4/12 日 2:00pm
NHKホール

ハイドン／チェロ協奏曲 第1番 ハ長調 Hob. VIIb-1
ブルックナー／交響曲 第9番 ニ短調

指揮：ファビオ・ルイージ
チェロ：ヤン・フォーグラー

B 第2061回
4/16 木 7:00pm
4/17 金 7:00pm
サントリーホール

モーツァルト／クラリネット協奏曲 イ長調 K. 622
マーラー／交響曲 第5番 嬰ハ短調

指揮：ファビオ・ルイージ
クラリネット：松本健司（N響首席クラリネット奏者）

C 第2062回
4/24 金 7:00pm
4/25 土 2:00pm
NHKホール

外山雄三／管弦楽のためのディヴェルティメント
プロコフィエフ／ピアノ協奏曲 第3番 ハ長調 作品26
伊福部 昭／交響譚詩
ブリテン／歌劇「ピーター・グライムズ」―「4つの海の間奏曲」作品33a

指揮：下野竜也
ピアノ：反田恭平

2026 05

A 第2064回
5/23 土 6:00pm
5/24 日 2:00pm
NHKホール

ブラームス／ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲 イ短調 作品102
ブラームス(シェーンベルク編)／ピアノ四重奏曲 第1番 ト短調 作品25

指揮：ミヒャエル・ザンデルリンク
ヴァイオリン：クリスティアン・テツラフ
チェロ：ターニャ・テツラフ

B 第2063回
5/14 木 7:00pm
5/15 金 7:00pm
サントリーホール

山田一雄／小交響詩「若者のうたへる歌」
ハルトマン／葬送協奏曲＊
須賀田礒太郎／交響的序曲 作品6
ヒンデミット／交響曲「画家マチス」

指揮：山田和樹
ヴァイオリン：キム・スーヤン＊

C 第2065回
5/29 金 7:00pm
5/30 土 2:00pm
NHKホール

ヴァスクス／NHK交響楽団ほか国際共同委嘱作品［タイトル未定／日本初演］
ショスタコーヴィチ／交響曲 第4番 ハ短調 作品43

指揮：アンドリス・ポーガ

2026 06

A 第2067回
6/13 土 6:00pm
6/14 日 2:00pm
NHKホール

ワーグナー／楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲
モーツァルト／ピアノ協奏曲 第17番 ト長調 K. 453
バルトーク／管弦楽のための協奏曲

指揮：ヤープ・ヴァン・ズヴェーデン
ピアノ：コンラッド・タオ

B 第2066回
6/4 木 7:00pm
6/5 金 7:00pm
サントリーホール

オネゲル／交響詩「夏の牧歌」
ベルリオーズ／歌曲集「夏の夜」作品7
イベール／寄港地
ドビュッシー／交響詩「海」

指揮：ステファヌ・ドゥネーヴ
独唱：未定

C 第2068回
6/19 金 7:00pm
6/20 土 2:00pm
NHKホール

シベリウス／アンダンテ・フェスティーヴォ
シベリウス／ヴァイオリン協奏曲 ニ短調 作品47
ラフマニノフ／交響曲 第3番 イ短調 作品44

指揮：尾高忠明
ヴァイオリン：HIMARI

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。
※料金、発売日等チケットの詳細は2025年3月末に発表予定です。

特別公演

12/18 水 7:00pm | 12/19 木 7:00pm | 12/21 土 2:00pm | 12/22 日 2:00pm | 12/24 火 7:00pm | ベートーヴェン「第9」演奏会

NHK ホール

指揮:ファビオ・ルイージ
ソプラノ:ヘンリエッテ・ボンデ・ハンセン　メゾ・ソプラノ:藤村実穂子
テノール:ステュアート・スケルトン　バス・バリトン:トマス・トマソン　合唱:新国立劇場合唱団
ベートーヴェン／交響曲 第9番 ニ短調 作品125「合唱つき」

料金(税込):一般｜S席17,000円 A席13,500円 B席10,000円 C席7,500円 D席5,000円
ユースチケット(29歳以下)｜S席8,500円 A席6,750円 B席5,000円 C席3,750円 D席2,500円

チケット発売日:N響定期会員先行発売｜9月25日(水)10:00am
一般｜9月29日(日)10:00am

※定期会員は一般料金の10%割引
※12月24日はNHK厚生文化事業団主催のチャリティコンサートです。

主催:NHK・NHK交響楽団／NHK・NHK厚生文化事業団(24日公演のみ)
協賛:みずほ証券株式会社／はごろもフーズ株式会社／株式会社明電舎
お問合せ:N響ガイド TEL (0570)02-9502／NHK厚生文化事業団 TEL (03)3476-5955(24日公演のみ)

12/23 月 7:00pm｜かんぽ生命 presents N響第九 Special Concert

サントリーホール

指揮:ファビオ・ルイージ　オルガン:中田恵子＊　ソリスト・合唱はベートーヴェン「第9」演奏会と同じ
バッハ／トッカータとフーガ ヘ長調 BWV540*
ベートーヴェン／交響曲 第9番 ニ短調 作品125「合唱つき」

料金(税込):一般｜S席20,000円 A席16,500円 B席13,000円 C席9,000円
ユースチケット(29歳以下)｜S席10,000円 A席8,200円 B席6,500円 C席4,500円

チケット発売日:N響定期会員先行発売 9月25日(水)10:00am
一般｜9月29日(日)10:00am

※定期会員は一般料金の10%割引

主催:NHK交響楽団　特別協賛:株式会社かんぽ生命保険　お問合せ:N響ガイド TEL (0570)02-9502

3/7金 7:00pm｜N響大河ドラマ＆名曲コンサート

東京オペラシティ コンサートホール

指揮:広上淳一　ヴァイオリン:三浦文彰*　特別ゲスト:高橋英樹　司会:田添菜穂子

[第1部　大河ドラマ編]
青天を衝け(2021／佐藤直紀)
軍師官兵衛(2014／菅野祐悟)
麒麟がくる(2020／ジョン・グラム)
翔ぶが如く(1990／一柳 慧)
篤姫(2008／吉俣 良)
元禄太平記(1975／湯浅譲二)
草燃える(1979／湯浅譲二)
徳川慶喜(1998／湯浅譲二)
真田丸(2016／服部隆之)*
べらぼう〜蔦重栄華乃夢噺〜(2025／ジョン・グラム)

[第2部　「河」「川」にちなんだクラシック名曲選]
バッハ／ヴァイオリン協奏曲 第1番 イ短調 BWV1041*
ヨハン・シュトラウスII世／ワルツ「美しく青きドナウ」
グロフェ／組曲「ミシシッピ」―「マルディ・グラ」

料金(税込):後日発表

チケット発売日:N響定期会員先行発売 1月9日(木)10:00am
一般｜1月14日(火)10:00am

※定期会員は一般料金の10%割引

主催:NHK／NHK交響楽団　お問合せ:N響ガイド TEL (0570)02-9502

お申し込み

WEBチケットN響 | https://nhkso.pia.jp

N響ガイド｜TEL 0570-02-9502
営業時間:10:00am〜5:00pm
定休日:土・日・祝日

●東京都内での主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am〜開演時刻まで営業
●発売初日の土・日・祝日は10:00am〜3:00pmの営業
●電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

各地の公演

11/24㊐4:00pm｜NHK交響楽団演奏会 大阪公演

NHK大阪ホール

指揮:ディマ・スロボデニューク　ヴァイオリン:ニキータ・ボリソグレブスキー
チャイコフスキー／ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品35
プロコフィエフ／バレエ音楽「石の花」―「銅山の女王」「結婚組曲」
ストラヴィンスキー／3楽章の交響曲
主催:NHK大阪放送局／NHK交響楽団　お問合せ:NHK大阪ホール NHKイベントガイド TEL(06)6947-5000

12/8㊐3:00pm｜NHK交響楽団浦安特別公演

浦安市文化会館 大ホール

指揮:ファビオ・ルイージ　ピアノ:ネルソン・ゲルナー
スメタナ／歌劇「売られた花嫁」序曲
ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第3番 ニ短調 作品30
ムソルグスキー(ラヴェル編)／組曲「展覧会の絵」
主催:(公財)うらやす財団　お問合せ:浦安市文化会館 TEL(047)353-1121

1/5㊐5:00pm｜NHK交響楽団演奏会 甲府公演

YCC県民文化ホール(山梨県立県民文化ホール)

指揮:梅田俊明　ピアノ:亀井聖矢
ブラームス／ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品83
ベートーヴェン／交響曲 第5番 ハ短調 作品67「運命」
主催:NHK甲府放送局／NHK交響楽団　お問合せ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

1/12㊐4:00pm｜NHK交響楽団演奏会 西宮公演

兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール

指揮:サッシャ・ゲッツェル　ソプラノ:ヘラ・イェサン・パク＊
ヨハン・シュトラウスⅡ世／喜歌劇「こうもり」―序曲、「侯爵様、あなたのようなお方は」＊、ワルツ「南国のばら」作品388、ペルシャ行進曲 作品289、喜歌劇「こうもり」―「田舎娘を演じる時は」＊、狂乱のポルカ 作品260
コルンゴルト／シュトラウシアーナ
ヨーゼフ・シュトラウス／ワルツ「うわごと」作品212、ポルカ・マズルカ「とんぼ」作品204
ヨハン・シュトラウスⅡ世／喜歌劇「ジプシー男爵」序曲、ワルツ「ウィーンかたぎ」作品354
主催:NHK神戸放送局／NHK交響楽団　お問合せ:ハローダイヤル TEL(050)5542-8600

1/13月祝 2:00pm｜NHK交響楽団 大津公演

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 大ホール

出演者・曲目は1月12日と同じ

主催:NHK大津放送局／NHK交響楽団　お問合せ:ハローダイヤル TEL(050)5542-8600

2/2日 3:00pm｜第12回 NHK交響楽団いわき定期演奏会

いわき芸術文化交流館アリオス アルパイン大ホール

指揮:トゥガン・ソヒエフ　ヴァイオリン:郷古 廉

ムソルグスキー(リャードフ編)／歌劇「ソロチンツィの市」―「序曲」「ゴパック」
バルトーク／ヴァイオリン協奏曲 第2番
ドヴォルザーク／交響曲 第8番 ト長調 作品88

主催:いわき芸術文化交流館アリオス　お問合せ:アリオスチケットセンター TEL(0246)22-5800

2/26水 7:00pm｜NHK交響楽団 in Ichikawa

市川市文化会館

指揮:マルクス・ポシュナー　ピアノ:小林愛実

ベートーヴェン／序曲「コリオラン」作品62
モーツァルト／ピアノ協奏曲 第9番 変ホ長調 K. 271
ベートーヴェン／交響曲 第7番 イ長調 作品92

主催:(公財)市川市文化振興財団　お問合せ:(公財)市川市文化振興財団 TEL(047)379-5111

2/27木 7:00pm｜NHK交響楽団演奏会 和歌山公演

和歌山県民文化会館大ホール

出演者・曲目は2月26日と同じ

主催:和歌山県／(一財)和歌山県文化振興財団　お問合せ:和歌山県民文化会館 TEL(073)436-1331

3/1土 2:00pm｜NHK交響楽団演奏会 高知公演

高知県立県民文化ホール

出演者・曲目は2月26日と同じ

主催:NHK高知放送局／NHK交響楽団　お問合せ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

3/2日 3:30pm｜NHK交響楽団演奏会 高松公演

レクザムホール(香川県県民ホール)

出演者・曲目は2月26日と同じ

主催:NHK高松放送局／NHK交響楽団　お問合せ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

3/3月 7:00pm｜ユメニティのおがた開館25周年記念 NHK交響楽団 直方公演

ユメニティのおがた 大ホール

出演者・曲目は2月26日と同じ

主催:(公財)直方文化青少年協会　お問合せ:ユメニティのおがた TEL(0949)25-1007

3/8土 3:00pm | NHK交響楽団 上田特別公演「大河ドラマ＆名曲コンサート」

サントミューゼ 大ホール

指揮:広上淳一　ヴァイオリン:三浦文彰＊　司会:田添菜穂子
青天を衝け（2021／佐藤直紀）
軍師官兵衛（2014／菅野祐悟）
麒麟がくる（2020／ジョン・グラム）
翔ぶが如く（1990／一柳 慧）
篤姫（2008／吉俣 良）
元禄太平記（1975／湯浅譲二）
草燃える（1979／湯浅譲二）
徳川慶喜（1998／湯浅譲二）
真田丸（2016／服部隆之）＊
べらぼう〜蔦重栄華乃夢噺〜（2025／ジョン・グラム）
バッハ／ヴァイオリン協奏曲 第1番 イ短調 BWV1041＊
ヨハン・シュトラウスII世／ワルツ「美しく青きドナウ」
グロフェ／組曲「ミシシッピ」―「マルディ・グラ」

主催:上田市（上田市交流文化芸術センター）／上田市教育委員会　お問合せ:サントミューゼ 上田市交流文化芸術センター TEL（0268）27-2000

3/11火 7:00pm | 2025都民芸術フェスティバル参加公演 オーケストラ・シリーズNo.56 NHK交響楽団

すみだトリフォニーホール

指揮:大友直人　ピアノ:金子三勇士
スメタナ／交響詩「モルダウ」
リスト／ピアノ協奏曲 第2番 イ長調
ドヴォルザーク／交響曲 第9番 ホ短調 作品95「新世界から」

主催:公益社団法人 日本演奏連盟　お問合せ:公益社団法人 日本演奏連盟 TEL（03）3539-5131

オーチャード定期

横浜みなとみらいホール・大ホール

1/11土 3:30pm

出演者・曲目は1月12日と同じ

主催・お問合せ:Bunkamura TEL（03）3477-3244

お詫びと訂正

本誌『Philharmony』10月号の本コーナーにて誤りがありました。
お詫び申し上げますとともに、以下の通り訂正をさせていただきます。

40頁「NHK交響楽団 in Ichikawa」の開催曜日
［誤］2月26日（日）
［正］2月26日（水）

特別支援・特別協力・賛助会員
Corporate Membership

特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役社長 ｜ 間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長 ｜ 中島 篤
株式会社 みずほ銀行	頭取 ｜ 加藤勝彦
公益財団法人 渋谷育英会	理事長 ｜ 小丸成洋
東日本旅客鉄道株式会社	代表取締役社長 ｜ 喜勢陽一
東日本電信電話株式会社	代表取締役社長 ｜ 澁谷直樹
東京海上ホールディングス株式会社	取締役社長 グループCEO ｜ 小宮 暁
株式会社ポケモン	代表取締役社長 ｜ 石原恒和

特別協力

BMW ジャパン	代表取締役社長 ｜ 長谷川正敏
全日本空輸株式会社	代表取締役社長 ｜ 井上慎一
ヤマハ株式会社	代表執行役社長 ｜ 山浦 敦
ぴあ株式会社	代表取締役社長 ｜ 矢内 廣

賛助会員

- 常陸宮
- ㈱アートレイ
  代表取締役 ｜ 小森活美
- 相川直樹
- ㈱アイシン
  取締役社長 ｜ 吉田守孝
- ㈱アインホールディングス
  代表取締役社長 ｜ 大谷喜一
- 葵設備工事㈱
  代表取締役社長 ｜ 安藤正明
- ㈱あ佳音
  代表取締役社長 ｜ 遠山信之
- AXLBIT㈱
  代表取締役 ｜ 長谷川章博
- アサヒグループホールディングス㈱
  代表取締役社長兼CEO ｜ 勝木敦志
- ㈱朝日工業社
  代表取締役社長 ｜ 高須康有
- 朝日信用金庫
  理事長 ｜ 伊藤康博
- 有限責任 あずさ監査法人
  理事長 ｜ 山田裕行
- アットホーム㈱
  代表取締役社長 ｜ 鶴森康史
- イーソリューションズ㈱
  代表取締役社長 ｜ 佐々木経世
- EY新日本有限責任監査法人
  理事長 ｜ 片倉正美
- ㈱井口一世
  代表取締役 ｜ 井口一世
- 池上通信機㈱
  代表取締役社長 ｜ 清森洋祐
- ㈠財ITOH
  代表理事 ｜ 伊東忠俊
- 井村屋グループ㈱
  取締役社長 ｜ 大西安樹
- ㈲IL VIOLINO MAGICO
  代表取締役 ｜ 山下智之
- ㈱インターネットイニシアティブ
  代表取締役会長 ｜ 鈴木幸一
- 内 聖美
- 内山貴史
- SMBC日興証券㈱
  代表取締役社長 ｜ 吉岡秀二
- SCSK㈱
  代表取締役 執行役員 社長 ｜ 當麻隆昭
- ㈱NHKアート
  代表取締役社長 ｜ 平田恭佐
- NHK営業サービス㈱
  代表取締役社長 ｜ 手島一宏
- ㈱NHKエデュケーショナル
  代表取締役社長 ｜ 荒木美弥子
- ㈱NHKエンタープライズ
  代表取締役社長 ｜ 有吉伸人

・㈻NHK学園
理事長｜等々力 健

・㈱NHK グローバルメディアサービス
代表取締役社長｜神田真介

・㈱NHK出版
代表取締役社長｜江口貴之

・㈱NHK テクノロジーズ
代表取締役社長｜山口太一

・㈱NHK ビジネスクリエイト
代表取締役社長｜石原 勉

・㈱NHK プロモーション
代表取締役社長｜有吉伸人

・㈱NTTドコモ
代表取締役社長｜前田義晃

・㈱NTTファシリティーズ
代表取締役社長｜松原和彦

・ENEOS ホールディングス㈱
代表取締役 社長執行役員｜宮田知秀

・荏原冷熱システム㈱
代表取締役｜加藤恭一

・MN インターファッション㈱
代表取締役社長｜吉本一心

・㈱エレトク
代表取締役｜間部惠造

・大崎電気工業㈱
代表取締役会長｜渡辺佳英

・大塚ホールディングス㈱
代表取締役社長兼CEO｜樋口達夫

・㈱大林組
代表取締役社長｜蓮輪賢治

・オールニッポンヘリコプター㈱
代表取締役社長｜寺田 博

・岡崎悦子

・岡崎耕治

・小田急電鉄㈱
取締役社長｜鈴木 滋

・陰山建設㈱
代表取締役｜陰山正弘

・カシオ計算機㈱
代表取締役社長CEO兼CHRO
増田裕一

・鹿島建設㈱
代表取締役社長｜天野裕正

・㈱加藤電気工業所
代表取締役｜加藤浩章

・㈱金子製作所
代表取締役｜金子晴房

・カルチュア・エンタテインメント㈱
代表取締役 社長執行役員｜中西一雄

・㈱関電工
取締役社長｜仲摩俊男

・㈱かんぽ生命保険
取締役兼代表執行役社長｜谷垣邦夫

・キッコーマン㈱
代表取締役社長CEO｜中野祥三郎

・㈱CURIOUS PRODUCTIONS
代表取締役｜黒川幸太郎

・㈱教育芸術社
代表取締役｜市川かおり

・㈱共栄サービス
代表取締役｜半沢治久

・㈱共同通信会館
代表取締役専務｜梅野 修

・㈳共同通信社
社長｜水谷 亨

・キリンホールディングス㈱
代表取締役会長CEO｜磯崎功典

・㈻国立音楽大学
理事長｜重盛次正

・京王電鉄㈱
代表取締役社長 社長執行役員
都村智史

・京成電鉄㈱
代表取締役社長 社長執行役員
小林敏也

・KDDI㈱
代表取締役社長｜髙橋 誠

・㈿社団 恒仁会
理事長｜伊藤恒道

・㈱構造計画研究所ホールディングス
代表執行役｜服部正太

・㈱コーポレイトディレクション
代表取締役｜小川達大

・小林弘侑

・佐川印刷㈱
代表取締役会長｜木下宗昭

・佐藤弘康

・サフラン電機㈱
代表取締役｜藤崎貴之

・㈱サンセイ
代表取締役｜冨田佳佑

・サントリーホールディングス㈱
代表取締役社長｜新浪剛史

・㈱ジェイ・ウィル・コーポレーション
代表取締役社長｜佐藤雅典

・JCOM㈱
代表取締役社長｜岩木陽一

・㈱シグマクシス・ホールディングス
会長｜富村隆一

・㈱ジャパン・アーツ
代表取締役社長｜二瓶純一

・㈱集英社
代表取締役社長｜廣野眞一

・㈱小学館
代表取締役社長｜相賀信宏

・㈱商工組合中央金庫
代表取締役社長｜関根正裕

・庄司勇次朗・惠子

・ジョンソン・エンド・ジョンソン㈱

・㈱白川プロ
代表取締役｜白川亜弥

・㈶新赤坂健康管理協会
代表取締役社長｜小池 学

・信越化学工業㈱
代表取締役社長｜斉藤恭彦

・新菱冷熱工業㈱
代表取締役社長｜加賀美 猛

・㈱スカパーJSAT ホールディングス
代表取締役社長｜米倉英一

・㈱菅原
代表取締役 会長兼社長｜古江訓雄

・スズキ㈱
代表取締役社長｜鈴木俊宏

・住友商事㈱
代表取締役 社長執行役員 CEO
上野真吾

・住友電気工業㈱
社長｜井上 治

・セイコーグループ㈱
代表取締役会長兼グループCEO
兼グループCCO｜服部真二

・聖徳大学
理事長・学長｜川並弘純

・西武鉄道㈱
代表取締役社長｜小川周一郎

・清和綜合建物㈱
代表取締役社長｜大串桂一郎

・関彰商事㈱
代表取締役会長｜関 正夫

・㈱セノン
代表取締役｜稲葉 誠

・㈱ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長CEO｜村松俊亮

・損害保険ジャパン㈱
取締役社長｜石川耕治

・第一三共㈱
代表取締役会長兼CEO｜眞鍋 淳

・第一生命保険㈱
代表取締役社長｜隅野俊亮

・ダイキン工業㈱
取締役社長｜竹中直文

・大成建設㈱
代表取締役社長｜相川善郎

・大日コーポレーション㈱
代表取締役社長兼グループCEO
鈴木忠明

・高砂熱学工業㈱
代表取締役社長｜小島和人

・㈱ダク
代表取締役｜福田浩二

・㈱竹中工務店
取締役執行役員社長｜佐々木正人

・田中貴金属工業㈱
代表取締役社長執行役員
田中浩一朗

・田原 昇

・チャンネル銀河㈱
代表取締役社長｜前田鎮男

・中央日本土地建物グループ㈱
代表取締役社長｜三宅 潔

・中外製薬㈱
代表取締役社長｜奥田 修

・テルウェル東日本㈱
代表取締役社長｜石川 達

・㈱電通
代表取締役 社長執行役員｜佐野 傑

・㈱テンポプリモ
代表取締役｜中村聡武

・東海東京フィナンシャル・ホールディングス㈱
代表取締役会長｜石田建昭

・東海旅客鉄道㈱
代表取締役社長｜丹羽俊介

・東急㈱
取締役社長 社長執行役員｜堀江正博

・㈱東急コミュニティー
代表取締役社長｜木村昌平

・㈱東急文化村
代表取締役｜嶋田 創

・㈱東京交通会館
取締役社長｜興野敦郎

・東信地所㈱
代表取締役｜堀川利通

・東武鉄道㈱
取締役社長｜都筑 豊

・桐朋学園大学
学長｜辰巳明子

・㈱東北新社
代表取締役社長｜小坂恵一

・鳥取末広座㈱
代表取締役｜西川八重子

・㈠財凸版印刷三幸会
代表理事｜金子眞吾

・トヨタ自動車㈱
代表取締役社長｜佐藤恒治

・内外施設工業グループホールディングス㈱
代表取締役社長｜林 克昌

・中銀グループ
代表｜渡辺蔵人

・中本光子

・日興アセットマネジメント㈱
会長｜西田 豊

・日鉄興和不動産㈱
代表取締役社長｜三輪正浩

・日東紡績㈱
取締役 代表執行役会長｜辻 裕一

・㈱日本アーティスト
代表取締役｜幡野菜穂子

・日本ガイシ㈱
取締役社長｜小林 茂

・㈱日本カストディ銀行
代表取締役社長｜土屋正裕

・㈱日本国際放送
代表取締役社長｜髙尾 潤

・日本たばこ産業㈱
代表取締役社長｜寺畠正道

・日本通運㈱
代表取締役社長｜竹添進二郎

・日本電気㈱
取締役 代表執行役社長兼CEO
森田隆之

・㈠財日本放送協会共済会
理事長｜竹添賢一

・日本みらいホールディングス㈱
代表取締役社長｜安嶋 明

・日本郵政㈱
取締役兼代表執行役社長｜増田寛也

・㈱ニフコ
代表取締役社長｜柴尾雅春

・野田浩一

・野村ホールディングス㈱
代表執行役社長｜奥田健太郎

・パナソニック ホールディングス㈱
代表取締役 社長執行役員 グループCEO
楠見雄規

・㈱原田武夫国際戦略情報研究所
代表取締役｜原田武夫

・㈲パルフェ
代表取締役｜伊藤良彦

・ぴあ㈱
代表取締役社長｜矢内 廣

・㈱フォトロン
代表取締役｜瀧水 隆

・福田三千男

・富士通㈱
代表取締役社長｜時田隆仁

・富士通フロンテック㈱
代表取締役社長｜渡部広史

・古川宣一

・ペプチドリーム㈱
代表取締役社長CEO｜リード・パトリック

・㈱朋栄ホールディングス
代表取締役｜清原克明

・㈱放送衛星システム
代表取締役社長｜角 英夫

・㈶放送文化基金
理事長｜濱田純一

・ホクト㈱
代表取締役｜水野雅義

・前田工織㈱
代表取締役社長｜前田尚宏

・牧 寛之

・町田優子

・丸紅㈱
代表取締役社長｜柿木真澄

・溝江建設㈱
代表取締役社長｜溝江 弘

・三井住友海上火災保険㈱
代表取締役｜舩曳真一郎

・㈱三井住友銀行
頭取｜福留朗裕

・三井住友信託銀行㈱
取締役社長｜大山一也

・三菱商事㈱
代表取締役社長｜中西勝也

・三菱電機㈱
執行役社長｜漆間 啓

・㈱緑山スタジオ・シティ
代表取締役社長｜永田周太郎

・三橋産業㈱
代表取締役会長｜三橋洋之

・三橋洋之

・三原穂積

・㈱ミロク情報サービス
代表取締役社長｜是枝周樹

・㈻武蔵野音楽学園 武蔵野音楽大学
理事長｜福井直敬

・㈱明治
代表取締役社長｜松田克也

・㈱明電舎
代表取締役 執行役員社長｜井上晃夫

・メットライフ生命保険㈱
代表執行役 会長 社長 最高経営責任者
ディルク・オステイン

・㈱目の眼
社主｜櫻井 恵

・㈱モメンタム ジャパン
代表取締役社長｜三溝広志

・森ビル㈱
代表取締役社長｜辻 慎吾

・森平舞台機構㈱
代表取締役｜森 健輔

・山田産業㈱
代表取締役｜山田裕幸

・㈱ヤマハミュージックジャパン
代表取締役社長｜松岡祐治

・ユニオンツール㈱
代表取締役会長｜片山貴雄

・米澤文彦

・㈱読売広告社
代表取締役社長｜菊地英之

・㈱読売旅行
代表取締役社長｜貞広貴志

・リコージャパン㈱
代表取締役 社長執行役員 CEO
笠井 徹

・料亭 三長
代表｜髙橋千善

・㈱リンレイ
代表取締役社長｜鈴木信也

・㈲ルナ・エンタープライズ
代表取締役｜戸張誠二

・ローム㈱
代表取締役社長 社長執行役員
松本 功

・YKアクロス㈱
代表取締役社長｜田渕浩記

・YCC㈱
社長｜中山武之

・渡辺敦郎・優子

（五十音順、敬称略）

NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいており、当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

1. **会費**：一口50万円（年間）
2. **期間**：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. **入会の特典**：『フィルハーモニー』、「年間パンフレット」、「『第9』演奏会プログラム」等にご芳名を記載させていただきます。
   N響主催公演のご鑑賞や会場リハーサル見学の機会を設けます。

遺贈のご案内

資産の遺贈（遺言による寄付）を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介しております（三井住友信託銀行と提携）。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。
当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

お問い合わせ	公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」	TEL：03-5793-8120

曲目解説執筆者

菊間史織（きくま しおり）
尚美学園大学兼任講師。音楽教育に携わりながらプロコフィエフ研究を続ける。著書に『プロコフィエフ』（作曲家・人と作品シリーズ）、『「ピーターと狼」の点と線――プロコフィエフと20世紀　ソ連、おとぎ話、ディズニー映画』、論文に「「石の花」の連鎖から見たプロコフィエフのバレエ音楽：地底の美はどのように描かれたのか」など。

小室敬幸（こむろ たかゆき）
音楽ライター。東京音楽大学付属高等学校および同大学で作曲を、同大学院で音楽学を専攻。クラシックやジャズ、映画音楽を中心に楽曲解説の寄稿やインタビュー取材、ラジオ出演など幅広く活動。共著書に『聴かずぎらいのための吹奏楽入門』『コモンズ：スコラ vol. 18 ピアノへの旅』など。

平野貴俊（ひらの たかとし）
東京藝術大学大学院、明治学院大学非常勤講師。ラジオ・フランスの音楽活動の研究により博士号を取得。20世紀フランス音楽、現代音楽を専門分野として演奏会の曲目解説・コラムの執筆、翻訳にも携わる。校訂譜に『リリ・ブーランジェ ピアノ曲集』、訳書にジャン・ボワヴァン著『オリヴィエ・メシアンの教室』。

（五十音順、敬称略）

Information

『フィルハーモニー』2024年9月号 掲載内容変更のお知らせ

本誌2024年9月号の編集終了後、同月定期公演Bプログラムでソリストを務める予定だったエレーヌ・グリモー氏は、体調不良（新型コロナ感染）により来日できなくなりました。代わりましてアレッサンドロ・タヴェルナ氏が出演しました。曲目および他の出演者に変更はございませんでした。

N響の出演番組

**定期公演や特別公演の模様が放送されるほか、
大河ドラマのテーマ音楽や「名曲アルバム」の演奏なども行っています。
NHKの番組を通じてN響の演奏をお楽しみください。**

クラシック音楽館（N響定期公演ほか）
Eテレ 日曜9:00～11:00pm

ベストオブクラシック
FM 7:30～9:10pm

N響演奏会
FM 土曜4:00～5:50pm（不定期）

クラシックTV（クラシック全般の話題を取り上げます）
Eテレ 木曜9:00～9:30pm
月曜2:00～2:30pm（再放送）

これらの番組は放送終了後も「NHKプラス」（テレビ）や「らじる★らじる」（ラジオ）で1週間何度でもご視聴いただけます。
出演番組について、詳しくはNHKやN響のホームページをご覧ください。

みなさまの声をお聞かせください！

インターネットアンケートにご協力ください

ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。
ご協力をお願いいたします。

アクセス方法

STEP
1

スマートフォンで右の
2次元コードを読み取る。
またはURLを入力
https://www.nhkso.or.jp/enquete.html

STEP
2

開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP
3

アンケートに答えて（約5分）、
「送信」を押して完了！

キリトリ

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。
定期公演会場の主催者受付にお持ちいただくか、
〒108-0074東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

ふりがな		年齢	歳
お名前		TEL	

個人情報の取り扱いについて

ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、他の目的に使用いたしません。

NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Fabio Luisi
Music Director Emeritus: Charles Dutoit
Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt
Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy
Honorary Conductor: Paavo Järvi
Permanent Conductors: Tadaaki Otaka, Tatsuya Shimono

Specially Appointed Concertmaster: Fuminori Maro Shinozaki
First Concertmaster: Sunao Goko
Guest Concertmaster: Yosuke Kawasaki

1st Violins

Shirabe Aoki
Ayumu Iizuka
○ Kyoko Une
Yuki Oshika
○ Ryota Kuratomi
Ko Goto
Tamaki Kobayashi
Toshihiro Takai
Taiga Tojo
Yuki Naoi
Yumiko Nakamura
Takao Furihata
Hiroyuki Matsuda
○ Haruhiko Mimata
Nana Miyagawa
○ Tsutomu Yamagishi
○ Koichi Yokomizo

2nd Violins

◎ Rintaro Omiya
◎ Masahiro Morita
Toshiyuki Kimata
Maiko Saito
○ Keiko Shimada
○ Atsushi Shirai
○ Akiko Tanaka
Kirara Tsuboi
Yosuke Niwa
Kazuhiko Hirano
Yoko Funaki
Kenji Matano
Ryuto Murao
Masaya Yazu
Yoshikazu Yamada
○ Masamichi Yokoshima
Toshiro Yokoyama
Yuka Yoneda

Violas

◎ Ryo Sasaki
◎ Junichiro Murakami
☆ Shotaro Nakamura
Satoshi Ono
Shigetaka Obata
Eri Kuribayashi
□ Gentaro Sakaguchi
Mayumi Taniguchi
Hiroto Tobisawa
○ Hironori Nakamura
Naoyuki Matsui
Rachel Yui Mikuni
Yuya Minorikawa
○ Ryo Muramatsu

Cellos

◎ Rei Tsujimoto
◎ Ryoichi Fujimori
Hiroya Ichi
Yukinori Kobatake
○ Miho Naka
○ Ken'ichi Nishiyama
Shunsuke Fujimura
Koichi Fujimori
Hiroshi Miyasaka
Yuki Murai
Yusuke Yabe
○ Shunsuke Yamanouchi
Masako Watanabe

Contrabasses

◎ Shu Yoshida
○ Masanori Ichikawa
Eiji Inagawa
○ Jun Okamoto
Takashi Konno
○ Shinji Nishiyama
Tatsuro Honma
Yoko Yanai

Flutes

◎ Masayuki Kai
◎ Hiroaki Kanda
Maho Kajikawa
Junji Nakamura

Oboes

◎ Yumi Yoshimura
Shoko Ikeda
Izumi Tsuboike
Hitoshi Wakui

Clarinets

◎ Kei Ito
◎ Kenji Matsumoto
Takashi Yamane

Bassoons

◎ Hironori Ugajin
◎ Kazusa Mizutani
Yuki Sato
Keiko Sugawara
Itaru Morita

Horns

◎ Hitoshi Imai
Naoki Ishiyama
Yasushi Katsumata
Hiroshi Kigawa
Yudai Shoji
Kazuko Nomiyama

Trumpets

◎ Kazuaki Kikumoto
◎ Tomoyuki Hasegawa
Tomoki Ando
Kotaro Fujii
Eiji Yamamoto

Trombones

◎ Hikaru Koga
◎ Mikio Nitta
Ko Ikegami
Hiroyuki Kurogane
Takenori Yoshikawa

Tuba

Yukihiro Ikeda

Timpani

◎ Toru Uematsu
◎ Shoichi Kubo

Percussion

Tatsuya Ishikawa
Hidemi Kuroda
Satoshi Takeshima

Harp

Risako Hayakawa

Stage Manager

Masaya Tokunaga
Daisuke Kurokawa

Librarian

Akane Oki
Hideyo Kimura

(◎ Principal, ☆ Acting Principal, ○ Vice Principal, □ Acting Vice Principal, # Inspector)

PROGRAM

A

Concert No. 2022

NHK Hall

November

9 (Sat) **6:00pm**

10 (Sun) **2:00pm**

conductor	Kazuki Yamada
piano	Francesco Piemontesi
concertmaster	Sunao Goko

Albert Roussel
***Bacchus et Ariane*, ballet Op. 43**
—Suite No. 1
(***Bacchus and Ariadne***) [18′]

Béla Bartók
Piano Concerto No. 3 [25′]

I Allegretto
II Adagio religioso
III Allegro vivace

— intermission (20 minutes) **—**

Maurice Ravel
Valses nobles et sentimentales
(***Noble and Sentimental Waltzes***) [17′]

I Modéré
II Assez lent
III Modéré
IV Assez animé
V Presque lent
VI Assez vif
VII Moins vif
VIII Épilogue: Lent

Claude Debussy
Images for Orchestra*—*Iberia [20′]

I Par les rues et par les chemins
(Along the Streets and Along the Paths)
II Les parfums de la nuit
(The Scents of the Night)
III Le matin d'un jour de fête
(The Morning of a Festival Day)

- All performance durations are approximate.

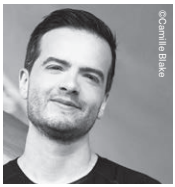
Kazuki Yamada, conductor

Kazuki Yamada retired from Principal Guest Conductor of the Yomiuri Nippon Symphony Orchestra at the end of March 2024, and with this, he has relinquished all positions he had held in major domestic orchestras to be ready to make his further career in Europe and North America. In May this year, he made his debut with the Chicago Symphony Orchestra's subscription concert, and has successfully led the Japan tour of the Orchestre Philharmonique de Monte-Carlo, where he has held the positions of Artistic and Music Director, and was promoted to Music Director from Principal Conductor and Artistic Advisor of the City of Birmingham Symphony Orchestra. At almost the same time, it was announced that he would be appointed as Artistic Director (music category) of the Tokyo Metropolitan Theatre from April 2026 and also his debut with the Berliner Philharmoniker which has been scheduled for June 2025. It seems he will focus on conducting orchestras of Europe and North America, and apply the ideas he has earned from the concerts with the world foremost orchestras to projects and events held in Japan, in an effort of exploring a new form of concerts as well as expansion of audience.

In this collaboration with the NHK Symphony Orchestra, he has lined up masterpieces of French modern composers such as Roussel, Ravel, Debussy, for which he has polished his interpretation during the time as Principal Guest Conductor of the Orchestre de la Suisse Romande (2012–2018) and the Orchestre Philharmonique de Monte-Carlo, and work with Swiss pianist Francesco Piemontesi performing Concerto of Bartók, a contemporary composer of those of French works.

Recently, supported by his extensive conducting career in Europe and America, he has sharpened his ability to delve deeper into the core of the works he conducts, while also broadening his range of approaches to make it easy for his audience to appreciate music. This can be described as the second culmination of his career surpassing the first which spans from winning the Besançon International Conducting Competition in 2009 to assuming the posts simultaneously with the Orchestre de la Suisse Romande, the Japan Philharmonic Orchestra, and the Sendai Philharmonic Orchestra in 2012.

Francesco Piemontesi, piano



Francesco Piemontesi was born in Locarno, an Italian-speaking region of Switzerland in 1983. He studied under Arie Vardi, Alfred Brendel, and Cécile Ousset, and won 3rd place at the Queen Elisabeth International Music Competition in 2007. Since then, he has started his international career and has constantly been invited to world's foremost orchestras. In 2014, he first appeared with the NHK Symphony Orchestra under the baton of Roger Norrington, playing Beethoven Piano Concerto No.1, and made his debut with the Berliner Philharmoniker in 2020 with Mozart Piano Concerto No.27 under Lahav Shani. He serves as Artistic Director of the Settimane Musicali di Ascona, a music festival held by Lake

Maggiore in the Italian-speaking region of Switzerland.

He has been well known for works from Classical to Romantic period composers such as Mozart, Beethoven, Schubert, Schumann and Liszt, however in recent years, he has also been working on modern and contemporary period works, and has recorded works for piano and orchestra by Ravel, Messiaen and Schönberg with the Orchestre de la Suisse Romande under Jonathan Nott. The Bartók Piano Concerto No.3 he will perform is sure to gather quite a lot of attention.

[Kazuki Yamada by Takuo Ikeda, music journalist, Francesco Piemontesi by Haruo Yamada, music critic]

Program Notes | **Kumiko Nishi**

Albert Roussel (1869–1937)

Bacchus et Ariane, ballet Op. 43—Suite No. 1 (*Bacchus and Ariadne*)

Seven-year junior to Debussy, French composer Roussel received a fully-fledged musical education only after leaving the Navy at age 25, though he had displayed his extraordinary musicality from childhood. His style was first affected by his teacher d'Indy (Franck's pupil) and then Debussy's Impressionism before showing a neo-Classical tendency. At any rate, Roussel's originality always resides in his rather horizontal, linear, polyphonic mindset (he was a renowned professor of counterpoint) and, above all, powerful rhythms.

The two-act ballet score *Bacchus et Ariane* (*Bacchus and Ariadne* 1931) is from Roussel's mature period. Based on Greek mythology and set in Naxos, the ballet features Ariadne, a Cretan princess, and Bacchus (Dionysus), a god of wine, who become a couple: the story is a sequel to the hero Theseus' defeat of the monstrous Minotaur in Crete and Theseus' escape from there with Ariadne.

The Suite No. 1 prepared from Act 1 by Roussel himself is in five major sections performed without pause. The second section has young companions (who landed in Naxos with Theseus and Ariadne) celebrate Theseus' victory over the monster. The third section hints at the Cretan Labyrinth with meandering melodies and lets Theseus reenact his battle against Minotaur. Bacchus appears in the fourth section putting Ariadne to sleep and forcing Theseus to leave Naxos without her. We then hear lightning caused by Bacchus' angry father Zeus (Jupiter). During the fifth section, Ariadne dances with Bacchus passionately in her dream before being left slumbering alone on a rock.

Béla Bartók (1881–1945)

Piano Concerto No. 3

Hungarian composer Bartók began piano lessons with his mother at five and started to compose soon after, before studying piano and composition at the Budapest Academy of Music. Considered nowadays a father of ethnomusicology, he collected and analyzed

numerous folk songs and dances mainly of Eastern Europe. As a classical composer, he was inspired both by folklore and his forerunners including Debussy and Stravinsky to create his innovative works which had a great impact on modernism in music.

One of Bartók's turning-points was his move to the USA in 1940. Although not Jewish, he left Europe to protest the Nazis. He spent his last years terminally ill and destitute in New York and passed away in exile in September 1945. However, a handful of his compositions from this difficult period are incredibly inspiring, of which the Piano Concerto No. 3 provides a great example. Bartók wrote it in the summer of 1945 while battling against leukemia. It was a birthday gift for his pianist wife, so she could gain income after his death by performing it. This is a reason why No. 3, stylistically less pioneering, differs from his progressive and percussively powerful Piano Concertos No. 1 (1926) and No. 2 (1931) composed for himself to premiere as the soloist. No. 3 was completed but the orchestration of the final seventeen bars. His friend Tibor Serly scored the bars for the 1946 premiere according to the shorthand left by Bartók.

The first sonata movement invites us to a folky, likely Romanian sound world with the opening unison melody on piano. The slow movement in A–B–A' form, headed "religiously," has the calm and divine beginning by strings and piano reminding us of *Heiliger Dankgesang eines Genesenen an die Gottheit* (*A Convalescent's Hymn of Thanksgiving to the Deity*) that the ill Beethoven wrote as the slow movement of his String Quartet No. 15 Op. 132 (1825). Bartók's contrastive central section resounds birdsongs that he is said to note down in North Carolina, USA. The rondo finale has a lively recurring theme which evokes a festive folk dance.

A

9 & 10. NOV. 2024

Maurice Ravel (**1875–1937**)

Valses nobles et sentimentales (*Noble and Sentimental Waltzes*)

Ravel and Debussy are often referred to in pairs. The former is, however, younger than the latter by no less than thirteen years and moreover, the styles that the two Frenchmen had are too varied to be lumped together into Impressionism. As for Ravel who was relatively unprolific, he always took a different approach to composing, whilst his constant clarity, minuteness and sophistication earned him a byname "Swiss Watchmaker." Another nickname of his, "Magician of Orchestration," is true of his masterly scoring which is the common feature of all his diverse orchestral works.

Originally, Ravel composed *Valses nobles et sentimentales* (*Noble and Sentimental Waltzes*) for piano in 1911. The title is a tribute to Schubert (1797–1828) who wrote twelve *Valses nobles* (D. 969) and thirty-four *Valses sentimentales* (D. 779). Ravel's, with French grace and finesse, are nevertheless far beyond imitation of the Viennese master's. Ravel then orchestrated the set for the ballet *Adélaïde: ou le langage des fleurs* (*Adelaide: The Language of Flowers* 1912) for which he wrote the scenario. Set in a Parisian salon in the 1820s, the story features Adelaide, a courtesan, and her two suitors. The epigraph (by Henri de Régnier) printed on the first edition of the piano version guides us to Ravel's poetic sound world: "… le plaisir délicieux et toujours nouveau d'une occupation inutile (the delightful and ever-new pleasure of a fruitless occupation)." A highlight is the tranquil ending of the set, *Épilogue*, where all the previous waltzes are recollected in fragments.

Claude Debussy (1862–1918)

Images for Orchestra—Iberia

Born in a Paris suburb, Debussy, a genuine early bloomer, was allowed to enroll in the Paris Conservatoire in 1872 at a mere 10 years of age. His ground-breaking compositions subsequently went on to have a great influence on music history in the 20th century by leaving the traditional language in terms of harmony, form and tone color.

Besides his intelligence as well as profound knowledge of literature and painting, Debussy's open mind and lively curiosity about the foreign and the unknown surely helped him explore a novel path in classical music. Two of the several examples are the Javanese gamelan music he discovered at the 1889 Paris World's Fair and the fascination with Spain that he got through reading, Bizet's *Carmen*, his Spanish friends and so forth. One of Debussy's early works immersed in Spanish exoticism is *Soirée dans Grenade* (*Evening in Granada*) for piano. To our surprise, he is said to have crossed the border between France and Spain only once in his life to watch a bullfight in a Spanish northeastern city as a day trip.

From Debussy's mature period, *Iberia* was written in 1906–1909 as a part of *Images for Orchestra*. He originally intended *Images* to be a triptych for two pianos, but eventually entrusted the multicolor nature to the large orchestra: *Images* is indeed an orchestral work atypical of Debussy as the percussion stands out noticeably. With the three movements of *Iberia*, he vividly depicts his almost-imaginary Spain. Opened with castanets beating flamenco-like quick triplets out, I *Par les rues et par les chemins* (*Along the Streets and Along the Paths*) is animated and occasionally languorous: the principal theme is introduced immediately by two clarinets. This melody will be recalled towards the end of II *Les parfums de la nuit* (*The Scents of the Night*) which has the heading "slow and dreamy." After a church bell rings, III *Le matin d'un jour de fête* (*The Morning of a Festival Day*) begins without pause. In march rhythm, the violinists and violists strum their instruments at times imitating guitars. Some themes from the preceding movements are heard again and then the radiant finale comes to a euphoric end.

Kumiko Nishi

English-French-Japanese translator based in the USA. Holds a MA in musicology from the University of Lyon II, France and a BA from the Tokyo University of the Arts (Geidai).

PROGRAM

B

Concert No. 2024

Suntory Hall

November
21(Thu) **7:00pm**
22(Fri) **7:00pm**

conductor	Dima Slobodeniouk
violin	Nikita Boriso-Glebsky
concertmaster	Kota Nagahara◆

◆**Kota Nagahara:** Born in Hiroshima, Kota Nagahara started learning the violin at the age of five, and worked with the Tokyo Symphony Orchestra at the age of twelve. He studied at Tokyo University of the Arts, and at the Juilliard School in New York. He has worked with many of the world's renowned conductors such as Seiji Ozawa, and has won the trust of Riccardo Muti, with whom he works every year at the Spring Festival in Tokyo. He performs as concert soloist as well as in chamber music and served as the concertmaster of the Yomiuri Nippon Symphony Orcehstra from 2014 to 2024.

Peter Ilich Tchaikovsky
Violin Concerto D Major Op. 35
[35′]

I Allegro moderato – Moderato assai
II Canzonetta: Andante
III Finale: Allegro vivacissimo

— intermission (20 minutes) —

Sergei Prokofiev
The Tale of Stone Flower, ballet [21′]

- *The Mistress of the Copper Mountain*
- *Wedding Suite*

I Amorous Dance
II Dance of the Fiancee's Girl-friends
III Maidens' Dance
IV Ceremonial Dance
V Wedding Dance

Igor Stravinsky
Symphony in Three Movements
[22′]

I ♩=160
II Andante
III Con moto

- All performance durations are approximate.

Dima Slobodeniouk, conductor

Finnish conductor Dima Slobodeniouk, who was born in Moscow in 1975, is active worldwide as one of the most notable conductors of his generation.

Dima Slobodeniouk studied with the Ukrainian violinist Olga Parkhomenko at Helsinki's Sibelius Academy, where he graduated in 2001. It was there that he also took up his conducting studies with Leif Segerstam, Jorma Panula and Atso Almila and also pursued further studies under Ilya Musin and Esa-Pekka Salonen.

From 2013 to 2022, he served as Music Director of the Orquesta Sinfónica de Galicia (Spain), and from 2016 to 2021, he was Principal Conductor of the Lahti Symphony Orchestra (Finland) and Artistic Director of the Lahti Sibelius Festival. He has also been invited by world's renowned orchestras such as the Berliner Philharmoniker, the Gewandhausorchester Leipzig, the Symphonieorchester des Bayerischen Rundfunks, and the Royal Concertgebouw Orchestra, and has been received very favorably.

Dima Slobodeniouk has garnered international acclaim for his diverse and dynamic repertoire, which includes not only Russian and Scandinavian works but also numerous contemporary compositions. His first collaboration with the NHK Symphony Orchestra dates back to July 2019 when he conducted the orchestra's summer concert, but this is his first appearance for the subscription concerts.

Nikita Boriso-Glebsky, violin

Nikita Boriso-Glebsky, born in Russia in 1985, is one of today's top artists who has continued to expand his span of music by never stopping to pursue further studies even after winning numerous international competitions, including those of Tchaikovsky (Moscow), the Queen Elisabeth (Brussels), Fritz Kreisler (Vienna), Sibelius (Helsinki), Montreal, and Monte Carlo. After studying with tutors including Eduardo Grach at the Moscow Conservatory, he also studied with Augustin Dumay at the Chapelle Musicale Reine Elisabeth in Belgium, and with Ana Chumachenco at the Kronberg Academy in Germany.

While performing masterpieces to entice audiences, he also made recordings of hidden works by Ysaÿe and Medtner. In recent years, he was invited to the Wiener Konzerthaus as its artist-in-residence, and performed Beethoven's complete string quartets at the Suntory Hall Chamber Music Garden as the first violin of the Atrium Strings Quartet.

He first worked with the NHK Symphony Orchestra in July 2017 playing Tchaikovsky Violin Concerto, then Glazunov's Concerto in the December 2019 subscription Program C concert.

[Dima Slobodeniouk by Ryosuke Masuda, music critic, Nikita Boriso-Glebsky by Yoshimichi Okuda, music critic]

Peter Ilich Tchaikovsky (1840–1893)

Violin Concerto D Major Op. 35

For Tchaikovsky, a Romantic composer representative of Imperial Russia, the year 1877 was a watershed both in his personal and professional lives. During this year, his painful married life which lasted for a mere two months plunged him into a nervous breakdown, whilst the lucky composer started to receive regular allowance from his wealthy patroness Nadezhda von Meck. Thanks to this financial support, Tchaikovsky was able to leave Russia in October 1877 to convalesce in Italy and Switzerland. Regaining his creative motivation there, he completed the Symphony No. 4 and dedicated it to Madame von Meck in token of gratitude.

This prolonged European stay also gave birth to the Violin Concerto, another masterwork of Tchaikovsky. A stimulus to the composition—he wrote it in a month in 1878—was the *Spanish Symphony* (1874) by the French composer Lalo: the Russian man discovered this violin concerto full of exoticism through his pupil Iosif Kotek while staying in Switzerland. And hence, Tchaikovsky's concerto is rich with folkloric inspirations, as in the case of the opening movement's principal theme first sung by the solo violinist. Following the slow second movement of which the title *Canzonetta* (meaning "little song" in Italian) evokes Tchaikovsky's stay in Italy, the last rondo movement begins without break. The soloist introduces the brisk rondo (recurrent) theme based on trepak, a Russian peasant dance, which will bring this virtuosic finale to a splendid close.

Sergei Prokofiev (1891–1953)

The Tale of Stone Flower, ballet —*The Mistress of the Copper Mountain, Wedding Suite*

Prokofiev was born in Imperial Russia (today in Donetsk Oblast, Ukraine) in the last decade of the 19th century. Following the 1917 Revolution, unlike Rachmaninov who exiled himself nor Shostakovich who remained in the Soviet Union, Prokofiev left his home in 1918 by permission of the Soviet authorities to compose and perform overseas. In 1936, he returned for good to the Stalinist USSR offering to the composer some carrots of fame and opportunities. He led a difficult life particularly after the Communist Party increased their censorship in 1948, which forced him to pursue a career as a composer toning his modernist tendency down.

The Tale of Stone Flower (1948–1953) is Prokofiev's last ballet score completed right before his passing. Based on an Ural folk tale, the plot is set in a mining community. The leading role Danila, a stone carver, aspires to create a malachite vase as beautiful as a living flower. For this ultimate goal, he goes down to the underground realm. A part of the ballet's Prologue, *The Mistress of the Copper Mountain* is entitled so after the realm's ruler with a supernatural power: at the outset, trumpets give the metallic, mysterious melody in unison. *Wedding Suite* was prepared as a concert piece by Prokofiev prior to the ballet's premiere. The five movements are derived from the scenes of Act I where the community delightfully celebrates Danila's engagement to lovely Katerina.

Igor Stravinsky (1882–1971)

Symphony in Three Movements

A pupil of Rimsky-Korsakov in Saint Petersburg, the Russian-born composer Stravinsky produced a great sensation in 1913 in Paris with his primitivistic music for the modern ballet, *The Rite of Spring*. His fate following the fall of Imperial Russia was as peculiar as Prokofiev's, for Stravinsky had been obliged to settle down in Switzerland at the outbreak of World War I and, when the 1917 Revolution occurred, he learned abroad that his property in his homeland was confiscated by the Bolsheviks. After he spent two decades in France, the outbreak of World War II made him decide to settle in the USA in 1939.

From his American period, the *Symphony in Three Movements* was composed in 1942–1945 for the New York Philharmonic. It was premiered by Stravinsky conducting the orchestra in January 1946, immediately after he took US citizenship. The work is regarded as his final statement of musical neo-classicism, the movement he originated in 1920 to revive styles and aesthetics of the past in modern light. On the other hand, powerfully savage rhythms and accents of the outer movements evoke Stravinsky's above-mentioned primitivism: it is suggestive that he revisited *The Rite of Spring* to largely revise its final *Sacrificial Dance* in 1943. The first movement of the *Symphony* was originally conceived as a concerto for piano, whilst the second movement spotlights a harp. As if joining the previous movements, the finale gives prominence to both piano and harp.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 57

PROGRAM

C

Concert No. 2023

NHK Hall

November

15(Fri) **7:00pm**

16(Sat) **2:00pm**

conductor	Andrés Orozco-Estrada
trumpet	Reinhold Friedrich
concertmaster	Kota Nagahara for a profile of Kota Nagahara, see p. 58

Richard Wagner
***Tannhäuser*, opera—Overture** [15′]

Mieczysław Weinberg
Trumpet Concerto B-flat Major Op. 94 [22′]

I Etudes: Allegro molto
II Episodes: Andante
III Fanfares: Andante—Allegretto

— intermission (20 minutes) —

Dmitry Shostakovich
Symphony No. 5 D Minor Op. 47 [45′]

I Moderato
II Allegretto
III Largo
IV Allegro non troppo

- All performance durations are approximate.

Artist Profiles

Andrés Orozco-Estrada, conductor

©Martin Sigmund

Born in Columbia in 1977, Andrés Orozco-Estrada learned violin and conducting, then in 1997, he moved to Vienna where he studied under Uroš Lajovic, a pupil of Hans Swarowsky, at the Universität für Musik und darstellende Kunst Wien. He still has his base in Vienna from where he has undertaken his international career. In 2019, he conducted the Wiener Philharmoniker on its Japan tour, leaving a strong impression to the Japanese audience with the program including Stravinsky's *The Rite of Spring*. He has also worked with the orchestra at the BBC Proms and the Luzern Festival.

He has served positions such as Principal Conductor of the Tonkünstler-Orchester Niederösterreich, Music Director of the hr-Sinfonieorchester, Music Director of the Houston

Symphony and the Principal Conductor of the Wiener Symphoniker. Currently he is Principal Conductor of the Orchestra Sinfonica Nazionale della RAI, and will assume the position of General Music Director of the Gürzenich-Orchester Köln and the Oper Köln from the 2025 season, according to an announcement. He has guest-conducted world prestigious orchestras including the Berliner Philharmoniker and the Royal Concertgebouw Orchestra while also actively working on recordings, and the Richard Strauss series with the hr-Sinfonieorchester among many are noteworthy.

This is his first collaboration with the NHK Symphony Orchestra. Shostakovich Symphony 5th is the work he also conducted in his debut with the Berliner Philharmoniker, therefore he will surely create music full of vitality by drawing clear sounds from the orchestra.

Reinhold Friedrich, trumpet

Born in Weingarten, Germany in 1958, Reinhold Friedrich started to learn trumpet at the age of seven. Tutors he studied with include Edward Tarr and Pierre Thibault. In 1982, he made his professional debut performing Luciano Berio's *Sequenza X* at the Berliner Festwochen. From 1983 to 1999, he served as Principal Trumpet with the Radio-Sinfonie-Orchester Frankfurt (now the hr-Sinfonieorchester), and in 2003, when the Lucerne Festival Orchestra was formed, he was appointed Principal Trumpet by conductor Claudio Abbado.

He has also been actively performing as soloist since he won 2nd prize (no 1st prize winner) at the Internationaler Musikwettbewerb der ARD in 1986, working with many orchestras, including the Royal Concertgebouw Orchestra and the Wiener Symphoniker. He has profound knowledge of period instruments, at the same time, he strives to introduce contemporary works, and has released many CDs. Presently he is a professor at the Staatliche Hochschule für Musik Karlsruhe, teaching many young artists.

Because he is a master who creates a tremendous impact with his rich and brilliant tone, expectations are high for his first collaboration with the NHK Symphony Orchestra. Weinberg's concerto is a colorful work incorporating parodic phrases, therefore we are thrilled to imagine how he will perform it for us.

[Andrés Orozco-Estrada by Yoichi Iio, music journalist, Reinhold Friedrich by Katsuhiko Shibata, music critic]

Richard Wagner (1813–1883)

Tannhäuser, opera—Overture

Wagner founded Musikdrama (music drama) as represented by his *Tristan und Isolde* and four-part *Der Ring des Nibelungen* (*The Ring of the Nibelung*). In this operatic genre for which he wrote both libretto and music, the drama and the music are indissolubly united on an unprecedented level, especially by the scrupulous use of the numerous leitmotifs (recurrent melodic or/and harmonic elements representing certain characters, feelings, things or so).

Tannhäuser und der Sängerkrieg auf Wartburg (*Tannhäuser and the Singers' Contest at Wartburg*), a grand romantic opera in three acts based on medieval legend, was a major step for Wagner to establish Musikdrama. Composed from 1843 to 1845, the opera was premiered in 1845 in Dresden before going through large and small revisions. The title-role Tannhäuser, a knight and minnesinger (minstrel), abandons himself to pleasure with Venus, a goddess of love and desire, in her domicile Venusberg. He, tired from his amorous days, goes back to the Wartburg castle and meets his platonic love Princess Elisabeth again. Banished from the castle as he, carelessly in a trance, praises Venus at the minnesingers' contest, he makes pilgrimage to Rome. He begs the pope's pardon in vain. Tannhäuser expires by the remains of Elisabeth who sacrificed her life for the salvation of his soul. The Overture in A–B–A' form suggests this redemptive conclusion: the solemn section A is built around the chorale-style theme of the *Pilgrims' Chorus* introduced by clarinets, horns and bassoons, whilst the joyful section B culminates with Tannhäuser's *Ode to Venus* on strings.

C

15 & 16. NOV. 2024

Mieczysław Weinberg (1919–1996)

Trumpet Concerto B-flat Major Op. 94

World War II caused an unprecedented number of expatriates such as Weinberg. Born into a Jewish family in Poland, he was trained as a pianist at the Warsaw Conservatory before the Nazi occupation of Poland forced him to emigrate to the USSR in 1939. He, after studying composition in Minsk, moved to Moscow in 1943 at the invitation of Shostakovich, thirteen years his senior, who highly esteemed the younger musician. Not as his pupil but close friend, Weinberg since received abundant advice from Shostakovich. Their friendship even saved Weinberg's life: in 1953 when he was unjustly imprisoned as a part of Stalin's anti-Semitic campaign, Shostakovich was brave enough to address a letter for clemency to the regime, thanks to that—and Stalin's sudden death—Weinberg was released.

Weinberg wrote the Trumpet Concerto (1966–1967) in his late forties for the Ukrainian virtuoso Timofei Dokshitser (1921–2005), the solo trumpeter of the Bolshoi Theatre Orchestra. The biting wit found in the first movement entitled *Etudes* brings Shostakovich's to mind. The dim middle movement *Episodes* is haunted by a rhythmic motif evoking Beethoven's Symphony No. 5, Mahler's Symphony No. 5 and Mendelssohn's famous *Wedding March*. Without pause, the finale *Fanfares* opens with the soloist's cadenza-like passages quoting clearly Mendelssohn's *Wedding March*: this enigmatic movement then collages in fragments, Rimsky-Korsakov's operas *The Tale of Tsar Saltan* and *The Golden Cockerel*, Bizet's opera *Carmen* (*Chorus of the Street Children*) and Stravinsky's ballet *Petrushka*.

Dmitry Shostakovich (1906–1975)

Symphony No. 5 D Minor Op. 47

Russian composer Shostakovich remained, unlike Rakhmaninov who fled to the West, behind the Iron Curtain. On his native soil, especially during Stalin's era from 1924 to 1953, the regime utilized every art form as a vehicle for their propaganda. Many of artists who didn't meet the official Soviet style called "Socialist realism" were destined for purge, labor camp, torture or execution.

During these years of terror, Shostakovich found himself in two extremely critical situations following the infamous censorships by the Communist Party in 1936 and 1948. Both of them threatened not only his artistic life but also his own existence. The Symphony No. 5, his answer to the 1936 denunciation, was written the next year in a few months as proper Soviet music. Shostakovich succeeded to rehabilitate himself with the work's highly successful premiere in Leningrad (today Saint Petersburg) in 1937 commemorating the 20th anniversary of the 1917 Bolshevik Revolution.

No. 5 takes a conventional four-movement form leading D minor to D major triumphantly following the spirit of "per aspera ad astra (through hardships to the stars)" of Beethoven the musical revolutionist. The opening sonata movement gives the eerie introductory theme with dotted rhythm and then the grievous first theme, before the second theme reminds us of the *Havanera* aria from Bizet's *Carmen*. The next movement is a darkish scherzo in A–B–A' form, whilst the slow third movement which excludes the brass instruments is said to allude to death and condolence. Turning the spotlight on the brass, the contrastive finale comes to an optimistic fanfare denouement in D major to please the Soviet authorities. However, Shostakovich begins this movement with the four-note ascending theme (A–D–E–F) on the brass quoting in secret his then-unpublished song *Rebirth*. The lyrics, to summarize, tell that the real value of a barbarously-oppressed art work will revive with time. Hidden messages of this sort that Shostakovich often entrusted to his works in a so-called "Aesopian" manner have helped succeeding generations to rehabilitate him in the truest sense.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 57

The Subscription Concerts Program 2024–25

2024 12

A

Concert No. **2025**

Nov. 30 (Sat) 6:00pm
Dec. 1 (Sun) 2:00pm

– The 1st day concert of the December subscription Program A will be held in November.

NHK Hall

The 150th Anniversary of Arnold Schönberg's Brith

Wagner *Tristan und Isolde* (*Tristan and Isolde*)—*Prelude and Liebestod*
R. Strauss *Das Rosenband* Op. 36-1 (*The Rose Chain*)*
R. Strauss *Freundliche Vision* Op. 48-1 (*A Welcome Vision*)*
R. Strauss *Waldseligkeit* Op. 49-1 (*Bliss in the Woods*)*
R. Strauss *Befreit* Op. 39-4 (*Released*)*
R. Strauss *Morgen* Op. 27-4 (*Tomorrow*)*
Schönberg *Pelleas und Melisande* Op. 5 (*Pelléas and Mélisande*)
Fabio Luisi, conductor **Christiane Karg**, soprano*

	Ordinary	Youth
S	11,000	5,500
A	9,500	4,500
B	7,600	3,500
C	6,000	2,800
D	5,000	1,800
E	3,000	1,400

B

Concert No. **2026**

December
5 (Thu) 7:00pm
6 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

Smetana *The Bartered Bride*, opera—Overture
Rakhmaninov Piano Concerto No. 3 D Minor Op. 30
Mussorgsky / Ravel *Pictures at an Exhibition*, suite

Fabio Luisi, conductor
Nelson Goerner, piano

	Ordinary	Youth
S	12,000	6,000
A	10,000	5,000
B	8,000	4,000
C	6,500	3,250
D	5,500	2,750

C

Concert No. **2027**

December
13 (Fri) 7:00pm
14 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Liszt *Tasso: lamento e trionfo*, sym. poem (*Tasso: Lament and Triumph*)
Liszt *Eine Faust-Symphonie in drei Charakterbildern* (*A Faust Symphony in Three Character Pictures*)*

Fabio Luisi, conductor
Christopher Ventris, tenor*◆ **Tokyo Opera Singers**, male chorus*
◆Changed from initially scheduled.

	Ordinary	Youth
S	13,000	6,500
A	11,000	5,200
B	8,500	4,000
C	7,000	3,500
D	5,600	2,000
E	3,500	1,700

2025 01

A

Concert No. **2028**

January
18 (Sat) 6:00pm
19 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

The 50th Anniversary of Dmitry Shostakovich's Death

Shostakovich Symphony No. 7 C Major Op. 60, *Leningrad*

Tugan Sokhiev, conductor

	Ordinary	Youth
S	11,000	5,500
A	9,500	4,500
B	7,600	3,500
C	6,000	2,800
D	5,000	1,800
E	3,000	1,400

B

Concert No. **2030**

January
30 (Thu) 7:00pm
31 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

Mussorgsky / Liadov *The Fair at Sorochyntsi*, opera—*Introduction, Gopak*
Bartók Violin Concerto No. 2
Dvořák Symphony No. 8 G Major Op. 88

Tugan Sokhiev, conductor
Sunao Goko (First Concertmaster, NHKSO), violin

	Ordinary	Youth
S	12,000	6,000
A	10,000	5,000
B	8,000	4,000
C	6,500	3,250
D	5,500	2,750

C

Concert No. **2029**

January
24 (Fri) 7:00pm
25 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Stravinsky *Pulcinella*, ballet
Brahms Symphony No. 1 C Minor Op. 68

Tugan Sokhiev, conductor

	Ordinary	Youth
S	11,000	5,500
A	9,500	4,500
B	7,600	3,500
C	6,000	2,800
D	5,000	1,800
E	3,000	1,400

2025 02

A

Concert No. **2031**

February
8 (Sat) 6:00pm
9 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Zemlinsky *Sinfonietta*, Op. 23
R. Strauss Horn Concerto No. 1 E-flat Major Op. 11
Dvořák *The Wild Dove*, sym. poem Op. 110
Janáček *Sinfonietta*

Petr Popelka, conductor
Radek Baborák, horn

	Ordinary	Youth
S	10,000	5,000
A	8,500	4,000
B	6,500	3,100
C	5,400	2,550
D	4,300	1,500
E	2,200	1,000

B

Concert No. **2032**

February
13 (Thu) 7:00pm
14 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

Mozart *Vado, ma dove?*, aria K. 583*
Mozart *Alma grande e nobil core*, aria K. 578*
Mozart Symphony No. 25 G Minor K. 183
Mozart *Bella mia fiamma, addio—Resta, oh cara*, recitative and aria K. 528*
Schumann Symphony No. 1 B-flat Major Op. 38, *Frühlingssinfonie* (*Spring Symphony*)

Petr Popelka, conductor **Ema Nikolovska**, mezzo soprano*

	Ordinary	Youth
S	12,000	6,000
A	10,000	5,000
B	8,000	4,000
C	6,500	3,250
D	5,500	2,750

C

Concert No. **2033**

February
21 (Fri) 7:00pm
22 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Suppè *Leichte Kavallerie*, operetta—Overture (*Light Cavalry*)
Saint-Saëns Violin Concerto No. 3 B Minor Op. 61
Suppè *Dichter und Bauer*, operetta—Oveture (*Poet and Peasant*)
Offenbach / Rosenthal *Gaîté Parisienne*, ballet (Excerpts) (*Parisian Gaiety*)

Tatsuya Shimono, conductor
Fumiaki Miura, violin

	Ordinary	Youth
S	10,000	5,000
A	8,500	4,000
B	6,500	3,100
C	5,400	2,550
D	4,300	1,500
E	2,200	1,000

A	**NHK Hall** Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm) Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)	
B	**Suntory Hall** Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm) Fri. 7:00pm (doors open at 6:20pm)	
C	**NHK Hall** Fri. 7:00pm (doors open at 6:00pm) Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)	

2025 04

A

Concert No. **2034**

April
12 (Sat) 6:00pm
13 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Berlioz *Harold en Italie*, symphony (*Harold in Italy*)*
Prokofiev Symphony No. 4 C Major Op. 112 (Revised Version / 1947)

Paavo Järvi, conductor
Antoine Tamestit, viola*

	Ordinary	Youth
S	11,000	5,500
A	9,500	4,500
B	7,600	3,500
C	6,000	2,800
D	5,000	1,800
E	3,000	1,400

B

Concert No. **2035**

April
17 (Thu) 7:00pm
18 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

Stravinsky *Petrushka*, ballet (Complete, 1947 Version)
Britten Piano Concerto Op. 13
Prokofiev *The Love for Three Oranges*, symphonic suite Op. 33bis

Paavo Järvi, conductor
Benjamin Grosvenor, piano

	Ordinary	Youth
S	12,000	6,000
A	10,000	5,000
B	8,000	4,000
C	6,500	3,250
D	5,500	2,750

C

There will be no subscription concerts of program C in April due to the orchestra's European tour.

2025 05

A

Concert No. **2036**

April
26 (Sat) 6:00pm
27 (Sun) 2:00pm
– Program A of the May subscription concerts will be held in April.

NHK Hall

The Program scheduled to be performed at Mahler Festival 2025

Mahler Symphony No. 3 D Minor

Fabio Luisi, conductor
Olesya Petrova, mezzo soprano
Tokyo Opera Singers, female chorus
NHK Tokyo Children Chorus, children chorus

	Ordinary	Youth
S	15,000	7,000
A	12,500	6,000
B	10,000	5,000
C	8,000	4,000
D	6,500	3,000
E	4,500	2,000

B

Concert No. **2037**

May
1 (Thu) 7:00pm
2 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

The Program scheduled to be performed at Mahler Festival 2025 (only Mahler)

Berg Violin Concerto
Mahler Symphony No. 4 G Major*

Fabio Luisi, conductor
Akiko Suwanai, violin **Maki Mori**, soprano*

	Ordinary	Youth
S	12,000	6,000
A	10,000	5,000
B	8,000	4,000
C	6,500	3,250
D	5,500	2,750

C

Concert No. **2038**

May
30 (Fri) 7:00pm
31 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Schubert *Rosamunde*, overture
Dohnányi *Variations on a Nursery Tune*, Op. 25*
R. Strauss Symphonic Fantasy from *Die Frau ohne Schatten* (*The Woman without a Shadow*)
R. Strauss Suite from *Der Rosenkavalier* (*The Rose-Bearer*)

Giedrė Šlekytė, conductor
Mao Fujita, piano*

	Ordinary	Youth
S	10,000	5,000
A	8,500	4,000
B	6,500	3,100
C	5,400	2,550
D	4,300	1,500
E	2,200	1,000

2025 06

A

Concert No. **2039**

June
7 (Sat) 6:00pm
8 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Rimsky-Korsakov *May Night*, opera—Overture
Rakhmaninov *Rhapsody on a Theme of Paganini*, Op. 43*
Tchaikovsky Symphony No. 6 B Minor Op. 74, *Pathétique*

Vladimir Fedoseyev, conductor
Yulianna Avdeeva, piano*

	Ordinary	Youth
S	10,000	5,000
A	8,500	4,000
B	6,500	3,100
C	5,400	2,550
D	4,300	1,500
E	2,200	1,000

B

Concert No. **2040**

June
12 (Thu) 7:00pm
13 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

Ibert Flute Concerto
Bruckner Symphony No. 6 A Major

Juanjo Mena, conductor
Karl-Heinz Schütz, flute

	Ordinary	Youth
S	12,000	6,000
A	10,000	5,000
B	8,000	4,000
C	6,500	3,250
D	5,500	2,750

C

Concert No. **2041**

June
20 (Fri) 7:00pm
21 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Korngold Violin Concerto D Major Op. 35
Mahler Symphony No. 1 D Major, *Titan*

Tarmo Peltokoski, conductor
Daniel Lozakovich, violin

	Ordinary	Youth
S	10,000	5,000
A	8,500	4,000
B	6,500	3,100
C	5,400	2,550
D	4,300	1,500
E	2,200	1,000

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

N響関連のお知らせ

いつでも どこでも、NHKの番組を。

NHK+

利用登録はこちらから

https://plus.nhk.jp/info/

総合・Eテレの番組を
スマホやタブレット・
パソコン・テレビ※1(一部)で
放送から1週間※2何度でも
お楽しみいただけます！

※1 テレビでは見逃し番組配信のみ
※2 地域の番組の一部は最長2週間配信

アプリで便利に！

メールアドレスとパスワードを入力するだけで
すぐに見逃し配信をご覧いただけます

※放送受信契約のある世帯の方が追加のご負担なく利用できるサービスです

スマホやPCでNHKラジオが楽しめる！

NHK ラジオ
らじる★らじる

スマートフォンやパソコンでラジオ第1（R1）・ラジオ第2（R2）・NHK-FMの放送をリアルタイムで聴くことができます。スマートフォンならアプリでもお楽しみいただけます。https://www.nhk.or.jp/radio

放送が終わっても
楽しめる！
聴き逃し

放送終了後1週間／
聴き逃し対象番組のみ

スマートフォン用アプリはこちらから

伝えるチカラ

NHK財団

◎ 公共メディアNHKを社会へ
◎ 社会貢献事業で、次世代の未来を応援！

2023年4月、NHKグループの4つの一般財団法人が合併して、NHK財団が発足しました。子法人の公益財団法人「NHK交響楽団」と共に、事業を進めていきます。

ステラnet

NHK財団の最新情報はこちらから

NHK
こども音楽クラブ

「NHKこども音楽クラブ」は、
NHKとNHK交響楽団で
実施している出前授業。
全国各地の学校を訪ね
ミニコンサートを行っています。

間近で聴く演奏に
目を輝かせる子どもたち
そして、素顔のN響メンバーに
出会えるコンサートです。

各公演の動画が
ホームページで
ご覧いただけます

https://www.nhk.or.jp/event/kodomo-ongaku/

N響の社会貢献

音楽は人々を元気づけ、ひとときの安らぎを与えてくれます。
N響はコンサートホールを飛び出して、さまざまな場所、さまざまな人たちに美しい音色をお届けし、広く社会に貢献していきます。

子どもたちの未来を育む

「N響が学校にやってきた」をキャッチフレーズにNHKと共催し、楽員たちが全国の小中学校を訪ねてミニコンサートを開く**「NHKこども音楽クラブ」**、クラシックの名曲を集めて毎年夏休みに開いている子どもと大人がともに楽しめるコンサート**「N響ほっとコンサート」**、N響の練習所に地元の保育園児を招いて楽器の音色を楽しんでいただく**「N響といっしょ！ 音を楽しむ!!」**などを開催しています。また、小中学校と協力し、子どもたちが創作と演奏をN響メンバーと一緒に体験するワークショップに取り組むなど、新たな音楽教育プログラムの開発にも力を入れています。

優れた音楽家を育てる

1950年代に**「指揮研究員」**制度を設置し、有望な若手指揮者をオーケストラの現場に迎え入れ、国内外の巨匠たちとの音楽づくりに携わる機会を提供してきました。この場から故・外山雄三氏、故・岩城宏之氏、故・若杉弘氏、そして現在のN響正指揮者・尾高忠明をはじめ、日本のクラシック音楽界を担う人材を数多く輩出しています。また2003年にはオーケストラ楽員の人材育成を目的に**「N響アカデミー」**を創設。オーディションで選抜された受講生が、楽員からのレッスン、リハーサルや公演の参加などを通じてトレーニングを積み、修了生はN響をはじめ国内外のオーケストラで活躍しています。

指揮研究員
平石章人、湯川紘惠

N響アカデミー在籍者
ヴァイオリン：下野園ひな子、遠井彩花、中井楓梨
ヴィオラ：和田志織　コントラバス：桑原孝太朗
クラリネット：浦畑尚吾
（2024年11月1日現在）

病院や福祉施設、被災地に届ける

病院や**高齢者施設**を楽員が訪れてミニコンサートを開き、入院する患者さん、看病するご家族、お年寄りの方たちに安らぎのひとときをお届けしています。また**被災地**にも出向き、演奏を通じて現地の人たちの応援にも力を入れてきました。

国際交流の輪を広げる

首都圏の大学と連携して**外国人留学生を公演に招待**しているほか、演奏指導などを通じて**ベトナム国立交響楽団との交流**を重ねています。音楽は世界の架け橋です。演奏を通じた絆が世界中に広がることを願っています。

大学や専門家と連携する

コロナ禍では業界団体によって行われた演奏中の飛沫を調べる実験に多くの楽員、職員を派遣して協力。この実験を通じ、舞台上の安全な楽器の配置などがわかり、業界の統一したガイドライン作りに役立ちました。2021年からは**東京工科大学**の授業の一環に協力して**N響コンサートのYouTube配信**を実現。メディア学部の学生たちが撮影、編集を担当し、NHK出身の職員らの指導を受けてプロ顔負けの作品に仕上げました。N響はこれからも異なる分野の人たちと手をたずさえ、デジタル活用など新しい課題に取り組みます。

役員等・団友

役員等

理事長	中野谷公一
常務理事	三溝敬志　大曽根 聡子
理事	相川直樹　内永ゆか子　岡田知之　杉山博孝　銭谷眞美　田辺雅泰　團 宏明　毛利 衛
監事	春原雄策　濵村和則
評議員	稲葉延雄　江頭敏明　樺山紘一　菅原 直　清野 智　田中宏暁　檀 ふみ　坪井節子 中嶋太一　前田昭雄　三浦 惺　山名啓雄　渡邊 修

事務局

演奏制作部

岩渕一真　高木かおり　高橋 啓
丸山千絵　沖 あかね　上原 静
石井 康　内山弥生　木村英代
利光敬司　徳永匡哉

企画プロモーション部

森下文典　黒川大亮
猪股正幸　三浦七菜子
吉賀亜希
宮崎則匡

経営管理部

野村 歩　吉田麻子
浅田武志　杉山真知子
目黒重治
山本能寛

特別主幹

今村啓一

技術主幹

尾澤 勉

芸術主幹

西川彰一

団友

名誉コンサートマスター

堀 正文

ヴァイオリン

板橋 健
梅澤美保子
海野義雄
大澤 浄
大林修子
大松八路
金田幸男
川上朋子
川上久雄
窪田茂夫
黒柳紀明
公門俊之
齋藤真知亜
酒井敏彦
清水謙二
鈴木弘一
田渕 彰
田中 裕
鶴我裕子
徳永二男
中瀬裕道
永峰高志
根津昭義
堀 伝
堀江 悟
前澤 均
宮里親弘
武藤伸二
村上和邦
山口裕之
蓬田清重

ヴィオラ

大久保淑人
小野富士
梯 孝則
河野昌彦
菅沼準二
店村眞積
田渕雅子
中竹英昭
三原征洋
村山 弘
山田雄司
渡部啓三

チェロ

岩井雅音
木越 洋
齋藤鶴吉
三戸正秀
銅銀久弥
丹羽経彦
平野秀清
藤本英雄
茂木新緑

コントラバス

井戸田善之
志賀信雄
佐川裕昭
新納益夫

フルート

菅原 潤
細川順三
宮本明恭

オーボエ

青山聖樹
北島 章
浜 道晃
茂木大輔

クラリネット

磯部周平
加藤明久
横川晴児

ファゴット

岡崎耕治
霧生吉秀

ホルン

大野良雄
中島大之
樋口哲生
松崎 裕
山田桂三
山本 真

トランペット

井川明彦
北村源三
来馬 賢
関山幸弘
津堅直弘
栃本浩規
福井 功
佛坂咲千生

トロンボーン

伊藤 清
神谷 敏
栗田雅勝
三輪純生

テューバ

多戸幾久三
原田元吉

打楽器

有賀誠門
岡田知之
瀬戸川 正
百瀬和紀

ピアノ

本荘玲子

理事長

曽我 健
田畑和宏
野島直樹
日向英実
木田幸紀
森 茂雄
今井 環
根本佳則

役員

加納民夫
唐木田信也
斉藤 滋
関川精二
鳴嶋郁夫
原 武
山崎大樹

事務局

稲川 洋
入江哲之
金沢 孝
小林文行
清水永一郎
関 照枝
中馬 究
出口修平
西村集介
芳賀由明
松崎ユリ
望戸一男
諸岡 淳
吉田博志
渡辺 克
渡辺克己

フィルハーモニー2024年11月号｜第96巻 第8号
2024年11月1日発行　ISSN 1344-5693

公益財団法人NHK交響楽団
〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49
TEL：(03) 5793-8111 / FAX：(03) 3443-0278
発行人◎三溝敬志／編集人◎猪股正幸

企画・編集：(一財)NHK財団
取材・編集：㈱アルテスパブリッシング
表紙・本文デザイン：寺井恵司

印刷：佐川印刷株式会社
©無断転載・複製を禁ず

李朝白磁　青花山水丸文 細口瓶　18世紀後半｜ Riseido Art Co., Ltd.
「目の眼」2024年10月号 特集〈李朝空間〉に掲載

骨董 古美術の愉しみをつたえる
menomeonline.com
目の眼

かんぽ生命 presents

N響第九

Special Concert

指揮：ファビオ・ルイージ
（NHK交響楽団 首席指揮者）
Fabio Luisi, conductor

バッハ／トッカータとフーガ ヘ長調 BWV 540
Bach Toccata and Fugue F Major BWV 540
オルガン：中田恵子
Keiko Nakata, organ

ベートーヴェン
交響曲 第9番 ニ短調 作品125「合唱つき」
Beethoven Symphony No.9 D Minor Op.125, *Choral*

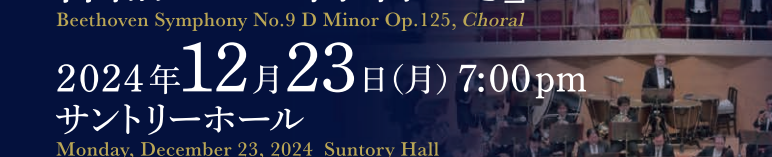
ソプラノ
ヘンリエッテ・ボンデ・ハンセン
Henriette Bonde-Hansen, soprano

メゾ・ソプラノ
藤村実穂子
Mihoko Fujimura, mezzo soprano

テノール
スチュアート・スケルトン
Stuart Skelton, tenor

バス・バリトン
トマス・トマソン
Tómas Tómasson, bass-baritone

合唱：新国立劇場合唱団
New National Theatre Chorus, chorus



2024年12月23日（月）7:00pm
サントリーホール
Monday, December 23, 2024 Suntory Hall

一般：S ¥20,000 A ¥16,500 B ¥13,000 C ¥9,000
ユースチケット（29歳以下）：S ¥10,000 A ¥8,200 B ¥6,500 C ¥4,500 ※全て税込価格
チケット発売開始：9月29日（日）10:00am
N響定期会員先行発売日：9月25日（水）10:00am［定期会員は一般料金から10%割引］
お問い合わせ：N響ガイド 0570-02-9502（営業日・営業時間はN響ホームページでご確認ください）

前売所
- WEBチケットN響……https://nhkso.pia.jp
- N響ガイド……0570-02-9502
- サントリーホールチケットセンター……0570-55-0017 suntory.jp/HALL/
- チケットぴあ……pia.jp/t/nhkso
- e+（イープラス）……eplus.jp/nhkso
- ローソンチケット……l-tike.com/nhkso

● ユースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。● 定期会員割引・先行発売はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。●車いす席をご希望の方は、N響ガイドへお問い合わせください。● N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。● やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。● 未就学児のご入場はお断りしています。● 公演に関する最新の情報はN響ホームページでご確認ください。

JP INSURANCE かんぽ生命

主催：NHK交響楽団
特別協賛：株式会社かんぽ生命保険

NHKSO NHK SYMPHONY ORCHESTRA TOKYO

NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

N響第9

NHK交響楽団
ベートーヴェン「第9」演奏会
Beethoven 9th Symphony Concerts

ベートーヴェン
交響曲 第9番 ニ短調
作品125「合唱つき」
Beethoven Symphony No.9 D Minor Op.125, *Choral*

2024年 12/18(水)7:00pm | 12/19(木)7:00pm
12/21(土)2:00pm | 12/22(日)2:00pm | 12/24(火)7:00pm*
NHKホール

*12月24日はNHK／NHK厚生文化事業団主催のチャリティコンサートです

指揮：ファビオ・ルイージ
（NHK交響楽団 首席指揮者）

合唱：新国立劇場合唱団

ソプラノ：ヘンリエッテ・ボンデ・ハンセン
メゾ・ソプラノ：藤村 実穂子
テノール：ステュアート・スケルトン
バス・バリトン：トマス・トマソン

©Yusuke Miyazaki(SEPT)

お問い合わせ
N響ガイド：0570-02-9502
（営業日・営業時間はN響ホームページでご確認ください）
NHK厚生文化事業団：03-3476-5955
（24日公演のみ、平日10:00am～6:00pm）

主催：NHK／NHK交響楽団
主催（24日）：NHK／NHK厚生文化事業団

協賛：みずほ証券株式会社
はごろもフーズ株式会社
株式会社明電舎

チケット発売開始

9月29日（日）10:00am
N響定期会員先行発売日：9月25日（水）10:00am

料金（税込）

一般	S ¥17,000	A ¥13,500	B ¥10,000	C ¥7,500	D ¥5,000
ユースチケット（29歳以下）	S ¥8,500	A ¥6,750	B ¥5,000	C ¥3,750	D ¥2,500

ユースチケット対象年齢を拡大。25歳以下→29歳以下に ※定期会員は一般料金から10％割引

前売所

WEBチケットN響	https://nhkso.pia.jp	e+（イープラス）	eplus.jp/nhkso
N響ガイド	0570-02-9502	ローソンチケット	l-tike.com/nhkso
チケットぴあ	pia.jp/t/nhkso		

●ユースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。●定期会員割引・先行発売はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。●車いす席をご希望の方は、N響ガイド（24日公演のみNHK厚生文化事業団）へお問い合わせください。●未就学児のご入場はお断りしています。●やむを得ない理由で出演者等が変更になる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。●公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

PHILHARMONY 11 フィルハーモニー 第96巻第8号 ISSN 1344-5693 定価300円 消費税込み

脱炭素の道へ。
水素とLPガスが加速する。

2050年、温暖化ガス排出実質ゼロ社会の実現を目指して。
イワタニはLPガス・Marui gas（マルオプロパン）の全国330万世帯以上の販売ネットワークを活かし
脱炭素の主役となる水素を暮らしと産業にお届けする準備を進めています。
さらに、環境への負荷を減らすために、水素やアンモニアを混合した
低炭素なLPガスの開発をはじめ、廃プラスチックやバイオガス由来の
水素やLPガス製造、新しいLPガス合成技術などを推進。
私たちは、水素とLPガスで確かな答えを持つ
クリーンエネルギーのトップランナーとして走り続けます。

水素&LPガス シェアNo.1※
※国内における販売シェア（ただし、水素はオンサイト・パイピングを除く。2024年5月現在、自社調べ）

Iwatani
岩谷産業株式会社